

覽要勢縣手岩

14.4

977

添附物
附錄2枚

版率九和昭

357.22

14.4
977



222998

凡例

- 一、本書は縣の大勢を知るに便せんが爲、主要なる統計を収録して、其の概要に就いて説明を加へた。
- 二、本書は主として昭和八年の事實に據つたのであるが、其の調査資料を得なかつたものは、最近の調査に係る事項を探り、特に重要と認むるものに就ては既往三年乃至五年の事實を併記し、彼此消長を通覽するの便に供した。
- 三、附録として卷末に管内諸官衙、學校、産業施設、名勝舊蹟等の一般を録して、視察遊覽等の便に供した。

昭和九年十二月

岩手縣知事官房

昭和九年版 岩手縣勢要覽

一、沿革	一	五、戶口	八
二、地勢	三	人口動態	八
位置、面積及廣表	四	市町村別戶口及面積	一〇
三、氣象	五	行政區劃	一八
四、土地	六	議會	一九
土地	七	官公吏其他	二〇
		產業	二一
		職業別戶數	二三
		重要物產	二三

主要生產物累年比較	三三
生產物總價額	三〇
生產額累年比較	三三
八、農 業	
耕 地	三三
耕地面積	三四
農產物	三五
米及麥	三六
九、蠶絲業	
製絲工場	三八
養蠶物	三八

繭及桑畑	三九
一〇、林 業	
民有林野	四〇
保安林	四一
林產物	四二
一一、水產業	
水產業者	四三
漁 船	四三
免許漁業	四三
許可漁業	四三
水產物	四四

一二、畜產業	
畜產業者	四五
畜公產	四六
一三、鑛 業	
鑛 區	四七
鑛產物	四六
一四、工 業	
工 場	四八
工產物	四九
一五、商 業	
大商工會議所	五〇
會 社	五一

物 價	五二
一六、勸業團體	
各種組合	五三
產業組合	五四
農業倉庫	五四
水利組合	五四
一七、經濟更生	
委員會	五五
計劃樹立町村	五六
負債整理組合	五六
一八、交通運輸	
道 路	五七

鐵道、船舶及汽車	六
一九、金	六
一五、銀行	六
無辜會社	六
實 屋	六
郵便爲替、貯金、振替貯金	六
二〇、教 育	六
小學校	六
實業補習學校	六
官公立諸學校	六
幼稚園	六
教員在職年數	六

公學費	六
公學費產及收入	六
二一、社會教育	六
圖書館	六
青年道場	六
青年訓練所	六
男子青年團	六
女子青年團	六
男女少年團	六
二二、社會事業	六
養育院及感化院	六
赤十字及愛國婦人會	六

住宅組合	七
公益質屋	七
廣 賃	七
二三、農 事	七
衛戍部隊	七
在地軍人會	七
壯 丁	七
二四、社寺教會	七
社寺及教會	七
二五、保健衛生	七
保健衛生	七
二六、保 安	七
火災及消防	七

二七、警 署	八
警察官署及犯罪	八
二八、財 政	八
資 產	八
負 債	八
諸稅負擔	八
諸 稅	八
縣稅納稅成績	八
市町村稅納稅成績	八
縣 歲 入	八
縣 歲 出	八
市町村歲入	八
市町村歲出	八



附 錄

二六 岩手案内

國寶……………二

史蹟名勝天然記念物……………五

名勝舊蹟……………八

神社佛閣……………一五

山岳と温泉……………三三

海濱と河川……………三九

官公衙と學校……………三三

市町村……………三九

産業組合……………四〇

教育……………四三

社會教育……………四四

社會事業……………四七

農産業……………四八

林業……………五〇

畜産業……………五八

水産業……………六三

鑛業……………六四

商業……………六四

主なる副業……………六九

名物名産……………七五

農産物……………七六

林産物……………七六

水産物……………七七

工業物……………七七

菓子類……………八〇

其他飲食品……………八〇

震災……………八一

岩手縣管内圖……………

岩手縣管内里程圖……………

列車、船舶、電車、自動車便……………



水岩井農場

猊鼻溪

嚴美溪



五百羅漢



金色堂



高原松原



高松ケスートリクン



釜石魚市場

一、沿革

本縣は元陸奥の一部で、有史以前はコロボツクルと云ふ人種が住み、其の歴史に見えた頃は蝦夷人(アイヌ)が住居した様である。崇神天皇及景行天皇の御代東夷を討伐してから、齊明天皇に至る間、幾多の軍を起して之を征服したけれ共、未だ蝦夷の巢窟たるを免れなかつた。而して奈良朝時代、元明天皇又は元正天皇の頃に兵を遣し、更に進んで光仁天皇の時になつて深く賊地に侵入し、又平安朝時代桓武及嵯峨兩帝のころ、諸將をして夷族を平定せしめて諸郡を置き、拓殖亦其の効を奏したので、新郡が頻りに設置されて久しく事なきを得た。然るに後冷泉天皇の御代前九年の役を初めとして奥羽 方復多事となり、後三年の役が終つて漸く治まり奥羽の有となつた、後源頼朝が府を鎌倉に開いて天下兵馬の權を掌握したけれ共、獨り奥羽は藤原氏の據る所となつて、威令が久しく之に及ばなかつた。明治元年十二月陸奥を磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥の五國に分け、陸中は磐井、膽澤、江刺、和賀、稗貫、紫波、岩手、閉伊、九戸、鹿角の十郡を包含した、此の時南部氏は十三萬石に減封の上白石に轉封され、元の封土は朝廷の直轄となつたが同二年七月南部氏が復歸して盛岡藩主となり、岩手、紫波、稗貫

沿革

和賀の四郡を管し、而して和賀の内二十一村が江刺縣に屬し、紫波郡の四箇村は八戸藩に屬した、同三年五月藩知事南部利恭が其の職を辭して、藩を廢して縣とする事を建議したが、此の歲七月盛岡藩を廢して盛岡縣を置かれた、管轄區域は藩時と同じであつたが十一月令國廢藩置縣となつて、更に青森縣より九戸郡を割き又紫波全部を屬し江刺縣を廢して、閉伊及和賀の全部を合併して盛岡縣と稱したが、同一月になつて岩手縣と改稱した、九年四月磐井縣（明治四年七月一關縣を置き同年十二月改めて水澤縣とし、同八年十一月更に改めて磐井縣とす）を廢し磐井、膽澤、江刺の三郡を合した、此の年六月更に宮城縣より陸前國氣仙郡を割き、又青森縣より陸奥國二戸郡を割、て本縣に屬した。是に於て從來頻りに所管地の分合が行はれてゐたが始めて定まつた、即ち陟の岩手、紫波、和賀、稗貫、膽澤、江刺、西磐井、東磐井（明治十一年磐井郡を東西に分つ）上閉伊、下閉伊（明治十一年閉伊郡を東西南北中の五郡に分ち明治二十九年更に分合して上閉伊、下閉伊とす）九戸の十一郡盛岡市（明治二十二年市制施行）陸前の氣仙一郡、陸奥の二戸一郡合せて一市十三郡となつた、是より人文日に開け物産亦繁殖し、交通機關も漸く整ひて現在に至つた。

二、地勢

本縣は東徑百四十度三十八分より起り百四十二度五分に達し、北緯三十八度四十六分より四十度二十七分に至り、北は青森縣、西は秋田縣、南は宮城縣に界し、東は太平洋に臨み、本州の北東部を占めて居る、東西三十一里、南北四十五里で面積九百八十七方里、我國第一の大縣である、而して本州北勢外帯の北部を構成する北上山脈は、九戸、下閉伊、上閉伊、氣仙、二戸、岩手、稗貫、和賀、江刺、東磐井の一部に蟠居して南北に互る紡錘狀の高地形を成し、諸川が太平洋に走つて漁舟を助けて居る、西は秋田縣との境を畫する春梁山脈即ち陸奥の本支脈は南北に互る高地で、二戸、岩手、稗貫、和賀、膽澤、西磐井の西半が之に屬し、山岳重疊岩手山の六千八百尺を初めとして四五千尺の高峰多く、極めて險峻であるが皆東に傾いて中部が平地となつて居る、而して北上春梁山脈間の地溝帶の大部は、南に傾いて北上川と其の支流の灌域となつて其の一小部は北に傾き、馬淵川流域に屬する部分は沖積地となつて居る、是等本支流二戸、岩手、紫波、稗貫、和賀、江刺、膽澤及東西磐井の各郡に互つて灌漑し、生産豊富實に本縣の大動脈であつて、幾多の都邑が其の沿岸に興つて國道で連綴し、鐵道亦之に沿う

地勢

地勢

東西に支線を分岐して居る、海岸の北半は單調な砂濱峭岸相半するに過ぎないけれども、南半は屈曲が極めて多いので、所謂フォルト的港灣に富み、中央に突出する能ヶ崎は實に本州の極東である、近海は南に向つて通過する千島海流と、東北に轉過する日本海流即ち黒潮との二大海流が相交錯してゐるので、水族豊富にして世界三大漁場の一に數へられ無限の富を齎して居る。

位置面積及廣袤表

縣廳の位置	盛岡市内丸(東緯 一四一・〇六度 北緯 三九・四二度)
縣の位置	極東 下閉伊郡重茂村 極西 和賀郡湯田村 極南 西磐井郡永井村 極北 九戸郡種市村
面積及廣袤	面積 九八七・八〇 ^{方里} 廣袤(東北西) 三一二 ^{方里}

三、氣象

區域の廣大と地勢の多様とに由つて氣候も一樣でなく、概して海岸部は稍々溫和で内陸部は寒冷である、氣温は一二月の頃最低に達して、盛岡地方は最低零下二十度を降ることがある、而して四月になつて急に昇り七、八月最高となり十一月急に下降する。東海岸地方は夏季は南風東風、冬季は北風西風多く、北上山脈以西の地は冬季に北風、夏季に南風が多い、又夏秋の候旋風が襲來するけれ共、南日本の様に烈しくない、降水量は冬期に少く夏期に多い。

氣象

測候所		二 觀測所		二五		
氣温(攝氏)	盛岡最高 三三・五度 盛岡最低 三三・三度 平均 一三・一度	盛岡最高 三三・五度 盛岡最低 三三・三度 平均 一三・一度	盛岡最高 三三・五度 盛岡最低 三三・三度 平均 一三・一度	盛岡最高 三三・五度 盛岡最低 三三・三度 平均 一三・一度	盛岡最高 三三・五度 盛岡最低 三三・三度 平均 一三・一度	
降水量	盛岡 一、〇四四・六ミリ 盛岡 八八一・一ミリ	盛岡 一、〇四四・六ミリ 盛岡 八八一・一ミリ	盛岡 一、〇四四・六ミリ 盛岡 八八一・一ミリ	盛岡 一、〇四四・六ミリ 盛岡 八八一・一ミリ	盛岡 一、〇四四・六ミリ 盛岡 八八一・一ミリ	
天氣日數	種別 盛岡 快晴 晴 曇 雨雪 雪 電氣 電雷 霧 霜 暴風 古岡 九 一六〇 一六五 一七六 一〇三 二七 一三 二五 二四 八九 三七	種別 盛岡 快晴 晴 曇 雨雪 雪 電氣 電雷 霧 霜 暴風 古岡 九 一六〇 一六五 一七六 一〇三 二七 一三 二五 二四 八九 三七	種別 盛岡 快晴 晴 曇 雨雪 雪 電氣 電雷 霧 霜 暴風 古岡 九 一六〇 一六五 一七六 一〇三 二七 一三 二五 二四 八九 三七	種別 盛岡 快晴 晴 曇 雨雪 雪 電氣 電雷 霧 霜 暴風 古岡 九 一六〇 一六五 一七六 一〇三 二七 一三 二五 二四 八九 三七	種別 盛岡 快晴 晴 曇 雨雪 雪 電氣 電雷 霧 霜 暴風 古岡 九 一六〇 一六五 一七六 一〇三 二七 一三 二五 二四 八九 三七	種別 盛岡 快晴 晴 曇 雨雪 雪 電氣 電雷 霧 霜 暴風 古岡 九 一六〇 一六五 一七六 一〇三 二七 一三 二五 二四 八九 三七

地 土

四、土 地

本縣の土地總反別は百二十四萬二千八百十三町八反で、内御料地及官有地は五十萬三千二百五十一町八段で、總反別の四割に當り、民有地は七十三萬九千五百六十二町〇段で六割に當る。更に民有々租地を地目別に比較して見ると最も廣大なのは山林原野で五十五萬一千六百五十七町七反、仍ち民有々租地の七割八分に當り、次は畑八萬四千三十六町で同上の約一割一分、田五萬七千九百三十八町四段で〇割八分、宅地其の他は僅かに同上有租地の二分である。

一反歩當賃賃價額最高は其他中雜種地一四〇圓、次は田三十九圓、原野十八圓、畑十六圓、山林十三圓、宅地は七圓である。

年期地中有租地は一萬六百五十一町二反、免租年期地は二千六百五十三町三反、又免租地は二萬五千六百四十四町一反である。

地 土

地 有 民	土地總反別		土 地				反 別	賃 賃 價 額	一段當賃賃價額			反別百分比
	地 租 有	其原山宅畑田 計 他野林地	御 料 地		官 有 地				最 高	最 低	平 均	
			山林・原野 其他	山林・原野 其他	山林・原野 其他	山林・原野 其他						
免租年期地 計	10,651.2	705,883.3	46,038.0	1,173.7	15,779.8	576,282.5	1,299.5	1,021.2	1,160.3	100.00		
有租年期地	25,164.1	1,001.8	10,035.0	1,011.4	1,579.8	1,299.5	1,021.2	1,160.3	1,160.3	100.00		
免租年期地 計	38,468.6	1,001.8	56,073.0	2,185.1	17,359.6	777,562.0	1,299.5	1,021.2	1,160.3	100.00		

戸口

五、戸口

本縣は九百八十七方里餘の大面積を有するけれど、昭和五年十月一日現在に依る國勢調査の世帯数は十六萬二千九百六十五で、其の人口は九十七萬五千七百七十一、一世帯平均六人弱、一平方軒に付六十四人に過ぎないので、人口の稀薄なことは全國府縣中第一位である。

人口動態

郡市名	大正十四年國勢調査		昭和五年國勢調査		昭和八年十月一日現在推計人口	現住戸數
	世帯數	現在人口	世帯	人口		
盛岡	九、三六六	五〇、〇三〇	一一、六〇六	六二、二四九	三一、二九〇	一一、九八四
岩手	一三、二九二	八二、七五五	一三、四五二	八四、八〇七	四三、二二三	一三、四五二
紫波	七、二一五	四四、七〇四	七、四三三	四七、〇一九	二二、二八六	七、五四八
稗賀	九、四四二	五六、七七三	一〇、一九四	六一、〇一九	三三、七三三	一〇、四〇〇
和賀	一一、八一九	六九、六六八	一一、四二四	七四、二二五	三六、四九四	一〇、四七三
澁澤	一一、三三三	六九、五六八	一一、八〇四	七〇、二三四	三六、四九四	一一、九二〇
江刺	七、九三五	四六、五四一	八、〇〇〇	四八、〇六五	二八、六七四	七、九六八
西井	九、三四五	五六、五二五	九、三三五	五九、四七三	二八、九一九	九、八〇一
東磐	一三、五六三	七八、七七三	一四、〇六二	八三、五四九	四一、八二九	一四、〇五一
氣仙	一〇、五六一	六二、〇六一	一〇、九五九	六七、四六五	三一、四三三	一〇、九〇六

戸口

人口動態

年次	結婚		出生		死亡		出生死亡の差
	結婚	離婚	出生	死亡	出生	死亡	
昭和八年	一三、〇五八	一、三〇〇	四一、二八二	二四、〇〇〇	二、二二〇	一七、二八二	
昭和七年	一四、〇三三	一、四七九	四三、七六四	二二、一九三	二、五六五	二一、五七一	
同六年	一三、四八四	一、五五三	四〇、七五一	二二、二〇七	二、四七七	一九、五四四	
同五年	一三、九八六	一、五二六	四一、八四五	二二、七〇〇	二、六〇一	二〇、一四五	
同四年	一四、一三四	一、五七三	四〇、九五二	二二、三四四	二、五八二	一九、七〇七	

計	上閉		下閉		二九	
	伊伊	戸戸	伊伊	戸戸	計	計
一三、四〇一	七六、一七	一五、〇九八	八七、八〇五	四六、一九六	四一、六〇九	九四、七〇〇
一四、七九五	八六、七二四	一五、八六二	九四、一七〇	四七、七四二	四六、四二八	九八、六〇〇
一一、八四八	六九、九五三	一二、七〇二	七六、二八四	三七、三三二	三九、〇五二	八〇、〇〇〇
九、一一八	五五、九一四	九、六五四	五九、三八七	二九、七二三	二九、六六四	六一、四〇〇
一五三、九二八	九〇〇、九八四	一六二、九六五	九七五、七七二	四八六、九二五	四八八、八四六	一、〇二〇、〇〇〇

口 戸

市町村名	面積	戸數	人口
盛岡市	三、三三四	二、九八四	六二、三四九
沼宮内	一、〇〇〇	六四八	三、六四三
一玉川	四、八五六	三九七	二、七〇五
淺敷	一三、七三三	一一五	九一三
築川	八、六七六	三三七	二、四四五
中野	八、七三一	三〇〇	二、一九七
本宮	三、四三	四三七	二、六一
太田	一、四三四	六九二	三、七九
御所	一、四三〇	六三三	四、三〇
御明	一、八二三	六二二	四、〇〇〇
西山	一、八二三	五三九	三、三三九
雪部	二、六〇〇	六一一	三、七四七
計	二、〇四〇	五三五	二、九二七
岩手郡			
瀧澤	一、五四〇	八五五	五、六六
川口	一、三七〇	八九六	六、一五七
卷	一、〇五一	六〇三	四、〇八八
澁川	三、四五三	五〇〇	三、二〇六
大更	二、二四九	四八八	三、四〇八
松尾	二、二三五	六六三	三、九八一
平田	二、六一三	四八七	九三、三三
寺田	一、四九七	一、一四一	六、三八九
一井	一、二二一	四四二	二、五〇六
御方	四、六七五	四五〇	二、八三四
計	八、五〇〇	三三七	二、四五五
計	一四六、一〇六	一三、四五一	八四、八〇七

市町村別人口及面積 (・八町)

口 戸

市町村名	面積	戸數	人口
紫波郡			
古館	一、〇二二	二九〇	一、七二八
徳田	一、〇二二	六〇四	三、九六九
見前	一、〇二二	五〇一	三、五〇八
飯岡	一、七四六	六九一	四、三七八
煙山	二、二二六	六四一	三、四四八
不動	一、二三五	五〇六	三、三四二
分水	一、七二三	四三四	二、六八四
志和	四、五九三	八八二	五、三九三
赤石	一、〇〇四	五七〇	三、二〇九
彦内	一、〇五九	四〇七	二、四六五
佐部	二、一一八	二九八	一、九八四
赤澤	三、三五三	三六五	二、五三六
長岡	一、〇二三	三〇四	二、〇〇四
乙部	三、四七三	六一五	四、〇八三
計	二五、七七〇	七、五四八	四七、〇一九
貫郡			
花巻	一、五五八	三、二六四	一五、五五六
大迫	一、六一五	五二二	二、六五四
石鳥谷	三、九五八	七八四	四、四七一
内川	九、六八二	四三五	三、三三五
外川	四、二六二	二二七	一、八六八
龜ヶ森	一、三八四	二六七	一、七二九
新堀	一、一六二	四四七	二、六九三
八重畑	一、七四二	四八六	三、〇二二
八幡	二、三六八	九三六	五、五八九
湯本	一、七九五	四〇五	二、四八八
宮野	四、五〇六	八〇四	二、四八八
湯野	一、一六九	六〇六	三、三〇九
湯野	八、二五九	八五二	六、一六二
太田	三、一七七	四三八	二、九八六
計	四四、六二三	一〇、四七三	六一、〇一五

六、六 政

本縣の行政區劃は一市十三郡で、大正十五年地方制度改正に伴ふ郡役所廢止に際して、區域廣大、交通不便な下閉伊、九戸の兩郡に支廳を置いたれ共、八戸線の延長に伴つて交通の便が開けたので、昭和七年四月九戸支廳を廢止し、又徵稅賦課等の爲に、縣下七箇所に財務出張所を設け、土木行政の爲には七ヶ所に土木管區を置き、且時局匡救土木事業遂行の爲臨時土木管區五ヶ所及工管所九ヶ所を設け、穀物の生産及移出検査を行ふ二十の穀物検査出張所及木炭検査執行の爲主要生産地三十九箇所に木炭検査出張所を設置してある。

議員定数は貴族院議員一、衆議院議員七、縣會議員三十六、市町村會議員三千百二十二名で選舉有権者は貴族院議員(互選人)百名、衆議院議員二十萬八千四百四十三名、縣及市町村會議員は何れも十九萬八千六百九十五名ある。

縣官吏及吏員數は一千二百六十三名、市町村吏員は八千三百二十四名、統計調査員は二千三百九十九名ある。

行 政 區 劃

郡市名	支廳市役所所在地	町	村	計數	面積	人口
盛岡	丸	1	1	2	1,461.11	10,933
紫波		1	1	2	257.77	6,033
岩手		1	1	2	447.63	8,781
浪波		1	1	2	447.63	8,781
貫賀		1	1	2	767.23	10,024
澤刺		1	1	2	493.36	10,024
井井		1	1	2	287.77	4,911
仙井		1	1	2	361.91	7,033
伊伊		1	1	2	518.5	6,691
伊伊		1	1	2	617.77	6,691
宮古		1	1	2	90.52	1,044
戸		1	1	2	115.90	1,044
計		13	13	26	7,978.43	110,333

政 行

種 別	議 員 定 數	選 舉 有 權 者 數
貴族院議員	一	(互選人) 一〇〇
衆議院議員	七	二〇〇、八四三
縣會議員	三六	一九八、六九五
市町村會議員	三、一三三	一九八、六九五

官 公 吏 其 他

縣 官 吏 及 吏 員	市 町 村 吏 員	其 他
勅 任 待 任 奏 任 待 任 判 任 待 任 吏 任 待 任 巡 任 待 任 計 查	市 町 長 有 名 譽 職 給 村 長 有 名 譽 職 給 助 役 有 名 譽 職 給 收 入 役 及 副 收 入 役 主 事 記 事	技 師 技 手 及 技 手 補 常 設 委 員 區 長 同 代 理 者 其 他 統 計 調 査 員
一、二六三	一、九〇 三、七 一、五 七〇 三、三 九、四	一、八 二、三九一 四、〇三〇 四、 二、三九九

七、産 業

本縣は土地豊穡で農業に適し、農耕を専業又は本業として従事するものが九萬六千二百五十
三戸の多數を示して、其の耕地は十四萬二千四百三十二町八反歩に達し岩手米、岩手甘藍等は
全國に其の名を馳せ居る、牧畜は本邦にて於て樞要の地位を占め、南部馬の名は古來噴々たる
名聲あり、維新後は官公設の各種機關に依つて、改良増殖を圖り、常に之が施設を怠らず益々
進歩の域に向つてゐる。

林業は本邦の山林王國として年々産出する木炭、薪炭材、用材等夥しく、就中木炭は中央市
場に聲價を博して居る。

漁業は沿海四郡に互り、其の戸數七千四百六十戸、沿海八十里、寒暖二流の衝に當り、水族
の饒多なることは全國に其の比を見ない所で、世界屈指大漁場として誇りを有してゐる。

鑛業は昔日の如くに盛んではないが、縣下到處ところ鑛産に富み、特に鐵は全國第一で硫黃
は第二位の産地である。

工業の資源は海陸共に無盡蔵であるけれ共、開發遅々として之等の原料品を悉く加工し得な
いので、僅かに本縣總生産額の二割に過ぎないのは遺憾である。

本縣昭和八年中の生産物價額は一億二千六百七十六萬九千五百四十二圓で、一戸當七百七十

産 業

業 産

二圓八十七錢、一人當百二十四圓二十八錢で、前年に比較すると三千三百八十一萬八千九百五十圓、一戸當二百六圓十八錢、一人當三十三圓十六錢の増加を來したのである。
 尙既往五箇年間に於ける生産の趨勢を觀るに、昭和四年以降漸減し昭和七年より物價向上の結果前記の如く増加するに至つた。

職業別戸數

種 別	專 業	本 業	計	總戸數に對する千分比	
				專 業	本 業
農 業	二七、八二五	六八、四二八	九六、二五三	一六九・六三	四一七・一八
水 産	三、三三六	四、二二四	七、四六〇	一九・七三	二五・七五
工 業	一、三二八	二、五七八	三、九〇六	八・〇三	一・五七
商 業	九、五〇一	七、三〇八	一六、八〇九	五七・九二	四四・五六
交通 業	一、六二〇	六、九五一	八、五七一	七〇・七八	四二・三八
公務 業	二、六八三	二、一三三	四、八一六	一六・三五	一三・〇〇
其他 業	八、二六五	二、五八六	一〇、八五一	五〇・三八	一五・七六
計	五、三四〇	二、三四八	七、六八八	三二・六六	一四・三三
	六九、七八八	九四、二三六	一六四、〇二四	四二五・四七	五七四・五三

重要物産(百萬圓以上)

業 産

種 別	數 量	價 額	種 別	數 量	價 額
米	一、三二七、七八八石	二六、三一九、二五〇圓	桑 葉	一九、七八七、三九一貫	二、三六九、〇七五圓
鐵 礦	七七、七〇五、二七七貫	一六、四七六、三九〇圓	硫 磺	八、六〇〇、五三三斤	二、〇二七、八七三圓
瀟 石	一、一八〇、四〇三貫	五、八二二、〇三〇圓	用 材	一、三三三、九五一石	一、九六九、三七五圓
生 糸	一〇二、五一六貫	五、〇九九、六六五圓	薪 材	七九九、三三〇噸	一、七二二、四四五圓
麥 類	五三九、五六四石	四、九七八、八八三圓	丸 及 角 材	六四四、三三四石	一、五六九、七三五圓
酒 類	五三、一九八石	四、四七九、三五九圓	錫	八一八、〇四〇貫	一、五四〇、七五二圓
木 炭	三三、七四二、八九八貫	三、九三八、五二七圓	鹽	二四、九五五、一〇二貫	一、五四〇、三三九圓
大豆	三六三、一五六石	三、七八〇、三四四圓	稗	二七六、〇六三石	一、三五八、一六二圓
イカ	五、五〇、二九八貫	二、九三三、七三三圓	菓子及麵類	—	一、二三四、四三四圓
鮪	九、七五九、三五九貫	二、七三七、三三八圓	木 製 品	—	一、一〇三、二六六圓
		二、三九五、三七六圓			一、〇二〇、五七五圓

業 産

種 別	農 産					
	米	麥	大 豆	小 豆	粟	稗
位 單	圓石	圓石	圓石	圓石	圓石	圓石
昭和八年	一、三三七、七八八	二六、三九、二一五	四、四七九、三五九	二、九三三、七三三	二、四、一、二六	一、三五八、一六三
昭和七年	一、一〇六、四四六	一九、七五九、九七四	五、四七、二二三	三、四三三、〇一八	二〇、八九五	一、三七〇、四二〇
昭和六年	九八九、二〇二	一五、四〇一、六八四	五、三八、五三五	三、五五三、二七四	一八、六二四	二八八、一〇六
昭和五年	一、一九二、〇六一	一九、七七、三八八	五、五三、〇九一	四、六三一、一九	二〇、五三八	一、三二一、五八九
昭和四年	一、〇四四、〇四一	二七、一六、七六〇	五、四、七二一	五、三七八、一七〇	一〇、四九七	一、一四三、四三九

主要生産物累率比較

業 産

物	業 産						
	キヤベージ	蕎 麥	馬 鈴 薯	生 大 根	果 實	大 麻	葉 煙 草
位 單	圓石	圓石	圓石	圓石	圓石	圓石	圓石
昭和八年	三、三三八、五七一	二九〇、〇〇九	七、八三七、三二二	一四、六四、五〇一	七、三三、〇八五	五、七四、八九二	一、一八〇、四〇三
昭和七年	三、一〇九、九七七	二三五、五九七	七、六一、四三三	一四、五〇四、三五七	七〇七、三一	五〇三、七七八	一、一三一、九〇三
昭和六年	二、五〇六、〇二九	一、七六、三八二	五、八〇一、八八一	一三、八六一、四二二	六六八、〇四三	四一九、二五一	一、〇三〇、四一六
昭和五年	二、六五〇、三三六	一、五五、五〇四	六、七五九、六八七	一三、二五、九一八	七一一、六四〇	六八七、七八八	一、〇三三、五五九
昭和四年	一、九三〇、九七〇	二六五、七三〇	五、三三三、一九〇	一〇、九八八、七九五	九五七、六四八	八二四、九七三	一、一四三、九七四

業 産

産 畜				物	
豚	牛	馬	牛	乾	粕
乳	乳	乳	乳	鮑	粕
圓頭	圓石	圓頭	圓頭	圓貫	圓貫
一四、六五二	一、四三三 三〇七、九〇九	九八七、〇六三	二四、四四五	一、五、二二 七三、六三八	九、七五九、三五九 二、三九五、三七六
一八、七〇二	一〇〇、七〇六 二八四、五七六	七五七、九五五	一七、九七六	二〇、一一一 五四、〇八〇	九、二四、二三五 二、二六八、二四三
一八、五四八	九、八九六 二六〇、一五一	七三、〇八四	一六、〇二五	二四、九一三 七八、六一一	三、九七八、八九三 八二八、八九二
一五、三三三	六、五六七 二六三、一六二	八二四、六四一	一八、二二六	八、六七三 四八、九七九	二、九一、三四七 六三四、二四三
一〇、七六三	四、〇三八 二五六、五八七	一、二六、九四六	二、六、四七	四、八八二 四〇九、八〇〇	一、六〇六、四七七 六一、七二一

業 産

産 水						
鱒	鰻	鮪	鱈	烏	鱈	鱈
油	節	賊	節	賊	節	賊
圓貫	圓貫	圓貫	圓貫	圓貫	圓貫	圓貫
一、三二、九〇八 三五五、六二	一、五〇〇、七五二 八一八、〇四〇	二、一三、九八二 一、〇二〇、五七五	七、七一一 二、三五、三〇一	五、五二〇、二九八 二、七三七、三一八	一、〇六九、六六五 二六八、六五一	二、三一、六七七 一〇三、〇七六
二、三五二、一九六 五三八、四〇八	一、三三一、五〇四 一、八二七、八五八	二、一〇三、五一一 一、〇一三、五一一	九、四、五六六 二、四二、一四六	五、三五〇、四三二 一、六〇〇、二四〇	一、〇九六、六三一 二、五、四九八	一、七五、〇八七 五八、〇六一
九一九、六九四 一三一、五九九	四四七、八八五 七三四、〇九四	二、一六七、四八五 一、三三八、六四八	二、一九、九六八 三三八、三六五	一、九九五、六六二 六五四、三二〇	六九〇、九六〇 一六〇、五〇五	三六六、七〇五 一三八、二二三
六四八、四八三 二二五、五三八	六四三、二二七 一、一九一、八三六	一、二八六、二二七 一、二八六、二八九	一九二、二四八 九三一、九三〇	二、七四五、九二九 八五三、〇三五	一、一五五、四九五 三八、〇三一	四七、九四〇 一九五、七九一
二九四、〇八二 一六七、〇〇六	六二五、六八七 一、三五七、一四八	一、三六三、七八〇 九八四、二四	一、〇二、二四一 一、八四、〇五八	二、一八四、〇九五 八五三、二二八	一、二九二、四五八 五四〇、〇八五	九二七、九七一 五八一、三九七

業 産

郡市名	盛岩	紫稗	和籾	膽澤	西江	東井	氣井	上伊	下伊	計
岡手	四、三五三、四五二	一、〇〇四、〇〇一	六三三、八一九	一、七四二、一五六	五二六、六五五	一、〇二二、五三六	五三五、三三四	一、五五一、四一七	一、四八一、〇八〇	一、九四五、六二五
波手	四、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
貫賀	三、八八八、八八八	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
澤刺	三、八八八、八八八	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
井井	三、八八八、八八八	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
仙伊	三、八八八、八八八	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
伊伊	三、八八八、八八八	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
計	二四、〇〇四、六三五	一、〇〇六、一八八	四一七、一三三	一、〇〇三、六六九	六、八一三、四七一	一、〇〇三、六六九	四一七、一三三	一、〇〇六、一八八	二四、〇〇四、六三五	二四、〇〇四、六三五
計	五、一八三、一六九	九、八七八、〇四七	五、二九〇、〇〇〇	六、三三〇、五九五	九、八四五、〇一六	六、六四三、〇八六	四、〇〇一、〇一六	五、九二二、九三三	八、七六六、三九七	八、四一四、九九一
百分比	四・〇九	七・七七	四・一七	五・〇〇	七・七七	五・三四	三・一五	四・六七	六・九二	六・六四
現住戸當	四三二、五二	七三四、三七	七〇〇、八五	六〇三、五一	七八九、五三	五五七、三〇	五〇三、一五	六〇四、三三	六三三、九〇	七七二、五九
現人口當	七六、九〇	一一、二一三	一〇九、三〇	九九、五四	一二七、八六	九〇、二六	八一、六六	九六、七八	一〇一、四六	一一九、〇三

業 産

郡市名	盛岩	紫稗	和籾	膽澤	西江	東井	氣井	上伊	下伊	計
岡手	三、八八八、八八八	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
波手	三、八八八、八八八	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
貫賀	三、八八八、八八八	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
澤刺	三、八八八、八八八	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
井井	三、八八八、八八八	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
仙伊	三、八八八、八八八	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
伊伊	三、八八八、八八八	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
計	四九、六二一、〇六〇	二、四四六、〇一九	二、四四五、〇五一	三、一七二、〇一三	二、九七一、一九九	三、〇五五、一七六	三、〇五五、一七六	二、四四五、〇五一	二、四四六、〇一九	四九、六二一、〇六〇
計	二、三〇、六一四	四、七三〇、七七七	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	二、三〇、六一四
百分比	二・五四	九・八三	八・一六	八・一六	八・一六	八・一六	八・一六	八・一六	八・一六	二・五四
現住戸當	八、〇九三	二〇八、四五四	二〇八、四五四	二〇八、四五四	二〇八、四五四	二〇八、四五四	二〇八、四五四	二〇八、四五四	二〇八、四五四	八、〇九三
現人口當	一九、〇八	二〇、七二二	二〇、七二二	二〇、七二二	二〇、七二二	二〇、七二二	二〇、七二二	二〇、七二二	二〇、七二二	一九、〇八

生産物總價額

農 産 畜 産 林 産 礦 産 水 産

業 産

生産額累率比較

種別	年次	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年
農 産	現住一人當	四九、六二、〇六〇 ^円	三七、八九六、三六五 ^円	三〇、九四七、一八八 ^円	三八、二三八、七四八 ^円	五三、五一四、二六八 ^円
工 産	現住一人當	二四、〇一四、六二五	一八、六六五、九五四	一八、三五四、八一四	二二、一九七、四〇〇	二六、七八二、九七三
鑛 産	現住一人當	二四、四五、八二七	一一、五一、四〇一	九、七九一、一八八	一一、七四七、三二九	一五、五〇〇、七三〇
林 産	現住一人當	一一、九三三、九四三	九、六三八、八五〇	九、〇九八、一三〇	一〇、八二六、三〇五	一五、二八、六〇八
水 産	現住一人當	一三、九七七、六三四	一一、八七五、九六四	九、三五三、〇六二	一一、三一九、七三一	一三、二四五、四〇二
畜 産	現住一人當	二、七七六、四五三	二、三六三、〇五八	二、二八四、四七六	二、五六八、七九二	三、二三三、五四七
計	現住一人當	一二六、七六九、五四二	九二、九五〇、五九二	七九、八二七、八四八	九五、八九八、二九五	一二七、四〇五、五三七
現住一人當	現住一人當	七七三、八七 ^円	五七三、二〇 ^円	四九七、一三 ^円	六〇四、一四 ^円	八三三、〇一 ^円
現住一人當	現住一人當	一三四、二八	九三、四八	八〇、六一	九八、二四	一三四、三九

八、農 業

本縣は山岳多く氣候温暖ではないが、土地豊沃農耕に適するので、九萬六千二百五十三戸即ち現住戸数の五割九分が農業を専業又は本業として従事して居る、耕地面積十四萬二千四百三十二町八反で、一戸當約水田六段七畝、畑八段に當つて居る、尙耕地整理擴張事業は逐年旺盛になるので、本縣農業の前途は頗る多大の望を囑する所以である。

昭和八年農産物生産高は四千九百六十二萬一千六十圓で、生産物總價額の三割九分一厘を占め、米、麥、大豆、藪等其の主なるものである、前年に比して一千百七十二萬四千六百九十五圓を増したのほ、主として米及養蠶の増收の結果であつて米は前年より二十二萬一千三百四十二石(二割弱)價額に於て六百五十五萬九千二百四十一圓の増加を見た。

業 農

業農

種別	昭和八年		開墾	田畑間移動	其ノ他	計	荒地	田畑間移動	其ノ他	計	農耕戸數 一戸平均 耕作反別
	末現在	現在									
田	六五、〇四〇・九	三三九・二	三三九・二	四二・九	九六・六	四七八・七	六七・九	九〇・九	二五・五	一八四・三	・六
畑	七七、三九一・九	三四七・九	三四七・九	九二・四	三九・三	四七九・六	五六八	七九・四	一一六・六	二五二・八	・八
計	一四二、四三二・八	六八七・一	六八七・一	一三五・三	一三五・九	九五八・三	一二四・七	一七〇・三	一四二・一	四三七・一	一・五

耕地

(昭和八年末現在)

地區數	整理前ノ地積	整理後ノ地積	工事完了	工事中	工事未着手	計	經費豫算
	二、三九四	二、三九四	二、三九四	一七、四四四	三三五	二〇、一六三	一四、五一五、一五五
	二、五七	二、五七	二、五七	一八、六六二	三六一	二二、五四〇	

業農

種別	米		麥		大豆	粟	稗	小蕎麥	豆			
	陸	糯	燕	小								
數量	一、二三五、〇八三	一〇〇、四三三	一、三三七、七八八	三、四六、九一九	一、一七四、〇一三	七、三六四	五三九、五六四	二、三三、一五六	二、七六、〇六三	五三、三三二	三、八、七〇八	二、四、二二六
價額	二四、一五三、九三五	二、一三三、七〇五	二六、三三九、二二五	二、一九〇、三〇三	九七、六五五	二、一五六、一三七	四、四七九、三五九	二、九三三、七三三	一、三五八、一六二	三、八七、二四九	二、五八、七七九	三、三九、〇六六
種別	キヤベージ	馬鈴薯	生大根	大葉	葉草	牧草	果實	其他	計			
數量	三、三三八、五七一	七、八三七、三二二	一、四、六四、五〇一	七、一、五六一	四七九、四八三	一、五九六、五七六						
價額	二九〇、〇〇九	六五、二、九一〇	七三三、〇八五	六五、四九五	八三八、一九三	八五、四三二						

農産物

耕地面積

業 農

米 及 麥

郡市名	米		麥	
	作付反別	收穫高	作付反別	收穫高
盛野	二七・六	七、五五	一、三三	一、三五
岩波	六、六一	一、五〇	一、五二	一、八三
紫賀	六、八一	一、六〇	一、六〇	一、八三
神戶	六、八一	一、六〇	一、六〇	一、八三
和賀	六、八一	一、六〇	一、六〇	一、八三
江刺	六、八一	一、六〇	一、六〇	一、八三
西井	六、八一	一、六〇	一、六〇	一、八三
東伊	六、八一	一、六〇	一、六〇	一、八三
上伊	六、八一	一、六〇	一、六〇	一、八三
下伊	六、八一	一、六〇	一、六〇	一、八三
計	五九、二六・九	一、三三・七八	三、六五・〇	五三・六五〇

九、蠶 絲 業

養蠶は藩政時代古くから奨励され「南部紬」「南部真綿」は地方特産品として夙に名を知られてゐた、本縣の養蠶業は地勢氣候の適順と桑園の改善、品種の統一、飼養技術の研究、屑繭整理の奨励等と相俟つて其の普及發達逐年著しきものあり、昭和八年に於ける收購高百十八萬四百二貫に達し、其の養蠶戸數三萬六千二百九十七戸で、現住戸數の約二割二分一厘に當り、一戸當の掃立數量は春蠶四十一瓦、夏秋蠶十九瓦、蠶種十瓦當春蠶七貫二百二十六匁、夏秋蠶五貫四百十二匁である。

又桑畑は一萬二千四十三町餘、畑總段別の二割五分強に當つてゐる。

一時衰退した製絲業も縣是製絲株式會社、岩手縣繭絲販賣組合聯合會の設立等に依つて漸く更生進展するの狀態である。

業 絲 蠶

業絲蠶

郡市名	春		夏		秋		桑畑
	飼育戸數	掃立數量	飼育戸數	掃立數量	飼育戸數	掃立數量	
盛岡	一、四六六	三、六三七	一、九〇四	一、四八七	一、八一九〇	七二九	五、一七〇
岩手	一、四六六	三、六三七	一、九〇四	一、四八七	一、八一九〇	七二九	五、一七〇
紫波	一、四六六	三、六三七	一、九〇四	一、四八七	一、八一九〇	七二九	五、一七〇
和賀	一、四六六	三、六三七	一、九〇四	一、四八七	一、八一九〇	七二九	五、一七〇
江刺	一、四六六	三、六三七	一、九〇四	一、四八七	一、八一九〇	七二九	五、一七〇
西宮	一、四六六	三、六三七	一、九〇四	一、四八七	一、八一九〇	七二九	五、一七〇
東磐前	一、四六六	三、六三七	一、九〇四	一、四八七	一、八一九〇	七二九	五、一七〇
下閉伊	一、四六六	三、六三七	一、九〇四	一、四八七	一、八一九〇	七二九	五、一七〇
上閉伊	一、四六六	三、六三七	一、九〇四	一、四八七	一、八一九〇	七二九	五、一七〇
計	二九、六四三	一、二二四、六八八	二八、八八三	五五九、四四六	三〇二、七四九	一、二〇、四三〇	一、二〇、四三〇

繭及桑畑

業絲蠶

種別	數量	價額	養蠶物		種別	數量	價額
			種類	數量			
桑葉	一九、七八七、三九一	二、三六九、〇七五	生絲	一〇二、五二六	四、九七八、八八三		
春蠶	八七七、六五三	四、六一七、六三八	絹物	七六、七四四	四三九、八六四		
夏秋蠶	三〇三、七四九	一、二〇三、三九二	綿	六七一	一五、四六三		
繭	一、一〇、四〇二	五、八二一、〇三〇	苗	五五四、九四四	七、六八四		
計	一、四七八、一〇九	一四一、一〇九	網	—	九、五七五		
合計			合計		一三、七七一、六八三		

場數	釜數	職工	
		男	女
101	2,869	327	3,133
		計	
		3,460	

業林

一〇、林業

本縣は本邦唯一の山林國であつて、其の面積原野を合算し、實に百六萬二千四百六十二町餘に達し、全地積の八割六分の多きを占めてゐる、右の内御料地及官有財産は四十八萬六千八百八十町歩で、山林面積の四割六分である、而して産出する用材は杉、赤松、白揚、檜、朴、栗、樺、胡桃、桐を主とし、昭和八年中には一千百九十三萬三千九百四十三圓を産し、總生産額の九分三厘に當り、木炭、薪炭材、用材等が主要なものである、前年に比し二百二十九萬五千九百十三圓の増加を觀たのは、生産數量の増加と價格の向上に因るものである。

民有林野

(昭和八年末現在三年毎調査)

種別	面積		種別	面積	種別	面積
	公有	私有				
人工	公有	私有	立木	針葉樹林	闊葉樹林	針闊混森林
	計	計		竹地	林	無立木地
天然	公有	私有	伐採	公有	私有	計
	計	計		計	計	計

業林

林産物

保安林

昭和七年末現在

種別	數量	價額	種別	數量	價額	國有	公有	社寺有	私有	計
竹材	一七、四一七	一〇、二四五	丸及角材	六四四、三四石	一、五六九、七三五					
薪炭材	七九九、三三〇	一、七二二、四四五	板	五七九、二七六	五八〇、六四〇					
木炭	三三、七四二、八九百	三、七八〇、三四四	鐵道枕木	六〇六、四〇二	四四〇、七四〇					
造林用苗木	一一、一五九、三八一本	一四二、六七四	其他	—	六四一、四三四					
樹實	三八、三四石	四三二、二二〇	計	—	一一、九三三、九四三					

水産業

一、水産業

本縣は海岸線の延長八十里に達し、漁撈採藻を業とするもの一萬五千五百六十二戸、漁民の数は四萬六千六十八名で前年に比し四十八名を減少した。
 由來本縣は天與の良好なる港湾があり、且つ寒暖兩流は鱈、鮭、鱈、秋魚刀、柔魚、鮭、鱈等の重要魚族を齎し、其の水産の豊富なることは全國に其の比を見ない所である。
 昭和八年中の水産物總額は一千三百九十七萬七千六百三十四圓で總生産の一分二厘に當り、水産製造物最も多く、沿岸漁獲物、遠洋漁業、水産養殖之に次ぐの産額であつて、前年に比し百十萬一千六百七十圓の増加を觀たのは主として價格の向上と好漁に因るものである。

業主 被用者	漁撈		製造		養殖	
	本業	副業	本業	副業	本業	副業
	四、三八六	五、五六四	五、五五七	二、〇三五	一、二六	一、二三六
	一〇、九二八	七、六五九	六、七八一	七三	一、一七八	一六、五九八
						一五、六八
						八、八三五

漁船

有動力	無動力	計	水産場		面積
			養殖場	場數	
一、二三	八、五八四	九、六九七		一、〇九一	六〇七、四九一

免許漁業

件數	定置漁業		特別漁業		區劃漁業		計
	類網	類網	地曳網	のり	かき	計	
二五	八五	一八	其ノ他	養殖	養殖	計	七六
							六二七

水産業

種別	件數	許可漁業		計
		手操網	機船底網	
持網	七三	四〇	九	五四
針小曳網				三三
針大曳網				一四五
手操網				一八
機船底網				三七二
旋網				
機船旋網				
機船曳網				
計				

水産業

種別	數量	價額	種別		數量	價額
			種別	數量		
漁獲物						
鯉	三三、六七七	101、047	鯉節	71、711	335、301	
烏賊	五、五三〇、二九八	2、737、318	鱈油	1、331、908	355、163	
鱈(鮫共)	1、069、665	268、651	錫	418、040	1、540、753	
鱈	24、955、102	1、540、239	銻浦及竹輪	77、534	64、587	
鱈	638、104	44、457	乾鮑	15、121	73、638	
鮭	2、233、982	1、030、575	鮑	9、759、359	2、395、376	
鮭	146、745	15、436	鮑	—	—	
鮭	59、418	63、253	鮑	—	—	
貝類	24、733	178、982	鮑	—	—	
貝類	2、097、841	193、123	鮑	—	—	
藻類	—	10、483、207	鮑	—	—	
其他	—	—	鮑	—	—	
水産製造物						
計	—	—	計	—	—	
計	—	—	計	—	—	

水産物

畜産業

本縣は地域廣潤で山岳丘陵に富み、原野は遠く連つて天然の牧場を形成して、本邦東北の稱あるのも偶然ではないのである。本縣牧畜の業は遠く藩政時代重要な施設として畫策され「南部馬、南部牛」の名は夙に天下に冠たるものである。管内飼養の馬匹八萬七千四百四十五頭、其の飼養戸數五萬四千二百四十戸、畜牛一萬五千七百三十四頭、飼養戸數六千九百八十九戸であつて、其の他綿羊、養鶏、養豚等年々増加發達の趨勢を示して居る。

昭和八年中の畜産物價額は二百七十七萬六千四百五十三圓、總生産額の二分二厘に當り馬、家禽、牛、豚、牛乳、屠殺等其の主要なるもので、前年に比して四十一萬四千三百九十五圓の増加を見たのは牛馬市價向上と生産數量の増加に基因するものである。

畜産業者

畜産業

家畜	飼養戸數		年末現在頭數	
	牛	六、九八九	一五、七三四	五、四、二四〇
馬	—	—	八七、四四五	一、六、七〇六
豚	—	—	—	—
綿羊	—	—	—	—
山羊	—	—	—	—
兔	—	—	—	—

業工

一四、五 業

本縣は廣潤な地積を擁して、海に陸に無盡蔵の資源を有するに拘らず、工業が遅々として振はれないのは、全く僻地の地が多くて、交通の利便に乏しく、且つ工業智識の缺乏は資本の招來を阻礙するに基因するものと觀察されるのである、今や電氣事業の普及と共に海陸交通の便も益々開かれるので、各種工業の勃興も蓋し遠くはあるまい。

昭和八年の工産物生産高は二千四百一萬四千六百二十五圓で、總生産額の一割九分に當り、其の主要なるものは酒、醬油、味噌、麵、製粉、製麵、菓子種等の飲食品及鐵管、鐵瓶、鍋釜農具等の金屬製品、其の他生糸、木製品等で前年に比して五百三十四萬八千六百七十一圓の増加を示して居るが、之は一般軍需經濟界漸次好況となり、又生産數量の増加に基因するものである。

工場

種別	場數	職		計工	一箇年生産額
		男	女		
織物	九	三三〇	三、二四一	三、五七一	五、三五九、五五一
紡績	四	四〇七	一	四〇七	三、八九二、〇四四
金具	二	一六一		一六一	一、二七、〇四五
機械器具	二				

物産工

五 産物

種別	數量	價額	種別	數量	價額
織物類	五三、一九八石	三、九三八、五七	菓子種	八四一、五九六個	四〇〇、一〇〇円
酒類	二、七七八	五七四、六四四	煉瓦、瓦、土器等	九七、〇七三	三三三、二〇〇
醬油類	三、八一、三三二	二〇三、八八九	鐵製鋼釜鐵瓶	七、五八四	九七、六一一
麵類	九、六八〇石	一八一、二二一	鐵製鋼釜鐵瓶	七、五八四	九七、〇七三
菓子及麵類		一、三三四、四三三	鐵製鋼釜鐵瓶	七、五八四	七、五八四
木製品		一、〇三三、二六六	鐵製鋼釜鐵瓶	七、五八四	一〇二、一一一
竹製品		一〇八、一一三	鐵製鋼釜鐵瓶	七、五八四	一七五、一一四
木製品		二四六、四四六	鐵製鋼釜鐵瓶	七、五八四	六一、二二三
菓子及麵類		一七三、六八五	鐵製鋼釜鐵瓶	七、五八四	一七五、四四六
麵類	三〇八、二九四石	一、七三、六八五	鐵製鋼釜鐵瓶	七、五八四	二四、〇一四、六二五
其他			鐵製鋼釜鐵瓶	七、五八四	

業商

一五、商 業

本縣の商業は尙幼稚の域を脱しないが、これは東北の僻陬に位するばかりでなく、縣下到處山嶽重疊起伏して、著しく交通運輸の便を阻碍するに基因するところが甚だ多いのである、既定、豫定の鐵道が敷設せられたならば、自動車輸送の普及と相俟つて、從來の阻碍は一掃され、本縣商業界の黎明期を招來するであらう。

昭和八年末商業戸數一萬八千五百七十一で、此の中専業として營むもの一萬一千六百二十、本業六千九百五十一戸で總戸數の割一分に當つて居る。
 會社は六百二十六で株式會社二百四十、合資會社三百一、合名會社八十五で業態より見ると商業、工業、運輸業其他農業の順である。

商工會議所

名 稱	盛岡商工會議所
所 在 地	盛岡市
設 立 年 月	大正 一四・二
經 費	一一、二六五 円
議 員	三〇
選 舉 有 權 者	五七四
職 員	五

業商

會 社

種 別	組 織 別	種 別	種 別
株式會社	合資會社	合名會社	其他
數	二四〇	三〇一	六二六
出資額又ハ資本金	七二、三〇六、三四〇 円	四、七〇二、九三八	七八、三七〇、七二八
積立金	一五、六五六、八〇六 円	六八、三三五	一五、八六〇、三九九
種 別	株式會社	合資會社	合名會社
數	一九三	三〇七	九二
出資額又ハ資本金	三、三四七、五七二 円	三八、一八六、五七八	六、一三四、四六〇
積立金	一、七七一、八〇八 円	一三、六〇一、七〇二	四七〇、五六九
種 別	株式會社	合資會社	合名會社
數	三〇	一〇	六二六
出資額又ハ資本金	一、九四〇、四〇九	七六二、七〇〇	七八、三七〇、七二八
積立金	一〇〇	一六、三三〇	一五、八六〇、三九九

勸業團體

種別	團體數	種別	團體數
產業組合	三	酒造農產組合	一
漁業組合	四	水產農產組合	一
畜産組合	一	市村農會	一
商業組合	六	町郡農會	五
重要物産同業組合	五		

各種組合

産業獎勵を目的とする主なる団体は、商工會議所、農會、山林會、商工振興會、商業組合、水産會、漁業組合、産馬畜産組合、養蠶組合、産業組合、蠶絲會、蠶種同業組合、鐵瓶同業組合、製絲同業組合、酒造組合、醬油醸造組合、杜氏組合、木材同業組合、木炭移出同業組合、製麵組合等であつて、盛岡商工會議所は大正十四年設立され、商業部、工業部、理財部、交通部の四部を設けて、商工業の調査紹介及獎勵等の任に當り、地方開發の中堅たる産業組合は明治三十四年五月七日氣仙郡小友信用組合設立を嚆矢として、爾來極力勸奨に努めた結果、逐年順調な發達を辿り其の數三百十五を數へ、縣都市町村農會、其の他、各種団体の發展と相俟つて、縣下産業經濟の發達に努力して居る。

一六、勸業團體

商業

種別	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年
精米 (一石)	三三・三三	三三・三三	三三・三三	三三・三三	三三・三三
大麥 (一石)	〇八・〇八	〇八・〇八	〇八・〇八	〇八・〇八	〇八・〇八
小麥 (一石)	一〇・一〇	一〇・一〇	一〇・一〇	一〇・一〇	一〇・一〇
大豆 (一石)	一四・一四	一四・一四	一四・一四	一四・一四	一四・一四
清酒 (一立)	七三・七三	七三・七三	七三・七三	七三・七三	七三・七三
醬油 (一立)	二七・二七	二七・二七	二七・二七	二七・二七	二七・二七
味噌 (一石)	三三・三三	三三・三三	三三・三三	三三・三三	三三・三三
薪 (一立方尺)	六七・六七	六七・六七	六七・六七	六七・六七	六七・六七
炭 (一五石)	六五・六五	六五・六五	六五・六五	六五・六五	六五・六五

物價

(盛岡市中等品)

産業団体

産業組合

調査組合数	三二
組合員数	八三、七六一
出資総額	四、六四六、五二五円
出資額	二、三九六、三〇三
借入金	一、三六六、〇六五円
貸付金	四、九四八、五九三
貯蓄金	七、六〇〇、一五七
販賣高	二、六八九、七九八
購買高	一、五〇四、三五三
利益	八二、二六四
赤字	一、五七六、六六一

農業倉庫

経営主体	設置町村	棟数	坪数	入庫数量	出庫数量	年末現在数量
五三	五三	七六	本屋 二、五四三 下屋 一、一七三	米 一七三、二四六 麦類 三、六六三 大豆類 八、五二四 雑穀類 二、五七〇 九、四〇三	一七三、二六三 一、一三二 八、四九三 二、四〇七 七、八五二	四、〇〇〇 二、九四三 六七 三、五五八 三、五四八

水利組合

組合数	三七	組合人員	一〇〇、一五七	組合戸数	一五、七一〇	組合地租割	二四、一四六円	経費	八、七六六	出費	四八、一五五	入費	五七、九五八	負債	二五、九四〇
-----	----	------	---------	------	--------	-------	---------	----	-------	----	--------	----	--------	----	--------

一七、經濟更生計畫

農山漁村疲弊の現状に鑑み其の不況を匡救し、産業の振興を圖つて民心の安定を策し、進んで農山漁村の更生に努むる爲、政府は昭和七年十月各府縣町村に經濟更生計畫を樹立せしむることとなつたので、本縣に於ても政府の該施設と相呼應して、同月縣經濟更生委員會を組織し、直ちに同年度に於ける經濟更生計畫樹立町村として三十ヶ町村を指定し、町村をして自主自營的に經濟の更生を圖らしむることとし、昭和八年一月同年度に於ける計畫樹立町村として二十ヶ町村又本年度は二十五ヶ町村計八十一ヶ町村を指定し、更に負債の重壓に苦しむ農山漁家の更生を圖るため負債整理組合設置を勸奨し着々之が計畫の樹立實行に努力してゐる。而して曩に縣に於て實施中の産業指導統制委員會は昭和八年三月末日限り之を廢止して、現在産業是を樹立せる百四十一ヶ町村の指導は全部之を縣經濟更生委員會の事業に移管したのである。

縣經濟更生委員會

會長	一人	副會長	一人	委員	六七人	幹事長	一人	幹事	八人	書記	三人
----	----	-----	----	----	-----	-----	----	----	----	----	----

經濟更生計畫

燕 盡 會 社

商 號	設 立 年 月 日	所 在 地	支 店 數	出 張 所 數	代 理 店 數	公 稱 資 本	拂 込 高 額	營 業 區 域
盛岡無盡株式會社	大正八、六、八	盛岡市	一	二	三	100,000円	80,000円	岩手縣一圓
岩手無盡株式會社	大正九、一、二	盛岡市	一〇	五	一	500,000円	175,000円	岩手縣一圓
水澤無盡株式會社	大正二、二、七	水澤町	一	一	一	100,000円	50,000円	膽澤郡、江刺郡、西磐井郡、東磐井郡、和賀郡
水上無盡株式會社	大正九、二、九	上閉伊郡 遠野町	一	一	一	30,000円	30,000円	氣仙郡、上閉伊郡、下閉伊郡
合 計			10	8	16	730,000円	335,000円	

質 屋

年 別	店 數	貸 出		受 戻		流 質		年 在 現 在	
		口 數	金 額 円	口 數	金 額 円	口 數	金 額 円		
同 七 年	六七	一一三	四六、八三〇	九六、五四九	三四六、四九一	一六、五七七	四八、八六三	二九、八四六	四五八、五五三
同 六 年	六二	一〇〇、七〇六	三五一、三九	七三、九七〇	二八七、八七八	一一、六六九	三九、八二四	一一七、五二六	四三七、〇七七

郵便爲替、貯金、振替貯金

年 別	種 別	振 出		人 員 金 額	振 込		
		口 數	金 額 円		口 數	金 額 円	
昭 和 八 年	郵 便 爲 替	九八四、五〇九	一〇、四三八、二二	三七七、七八六	二、二七八、九九九	一三、一四六、四七八	三、五九五、三九五
昭 和 七 年	郵 便 貯 金 (年 末 現 在)	一〇、三五三、〇七	一二、九八四、六九六	三六二、三〇三	一八、八三三、九二	一三、〇八二、四〇〇	五、二六、九三一

融 金

融 金

育 教

計	農 業· 商 業· 工 業	水 產· 商 業	農 業· 工 業	水 產· 農 業	農 業· 商 業	水 產· 農 業	商 業· 產 業	農 業	學 科	學 校	學 級	教 員		生 徒		入 學 者		卒 業 者	
												男	女	男	女	男	女	男	女
二四二	—	—	—	五	二	九	七	二六				八八三	三二二	六、五二六	五、三二五	三、八二二	三、五四四	二、三二六	二、二七三
四六七	五	二	—	一三	五	—	—	四〇				四一四	一三	一六六	三三八	一〇四	二五八	九七	一七九
一、〇一九	一〇	六	四	二二	一〇	四二	四一	八八三				三三九	三	—	—	—	—	—	—
七、五八七	二七九	四三	—	二二九	三三	二八一	—	六、五二六				四〇	二二	四六	七、七八四	七、五〇〇	八、五四四	九、九〇三	九、九〇三
六、一六六	一〇七	—	—	一五八	四五	二〇三	—	五、三二五				三三一	—	—	—	—	—	—	—
四、五〇四	一九七	二八	—	—	二七	一九八	—	三、八二二				三三九	—	—	—	—	—	—	—
四、一五一	—	—	—	八五	二五	—	—	三、五四四				—	—	—	—	—	—	—	—
二、七五三	八二	—	—	—	—	—	—	二、三二六				—	—	—	—	—	—	—	—
一、六五二	—	—	—	—	—	—	—	—				—	—	—	—	—	—	—	—

審業補習學校

育 教

學齡兒童及就學步合		郡市名	就學	不 就 學	計	男女各百中就學步合
計	戶					
九二、七二七	二九、九三九	盛岡	五、八九九	一、三	五、九一三	九九·八
八、二四五	七、四七四	岩手	七、七八五	—	七、八二四	九九·六
四、四七四	五、五二二	紫波	四、四七三	—	四、四七三	九九·七
五、五二二	六、九五六	稗貫	五、三六七	—	五、三三三	九九·五
七、二九九	六、六四二	和賀	六、九五八	—	六、九六九	九九·九
六、九一七	四、三九五	膽澤	六、六四二	—	六、六五三	九九·八
四、四三五	五、三三二	江刺	四、三八九	—	四、三九八	九九·八
五、三三二	七、六四四	西磐井	五、三三六	—	五、三六五	九九·七
八、〇三三	六、三七二	東磐井	七、六四四	—	七、六六五	九九·七
六、三七二	七、四六〇	氣仙	六、三七二	—	六、三九七	九九·七
七、七六四	八、四九八	上閉伊	七、四六〇	—	七、五〇〇	九九·七
九、一二五	七、一三九	下閉伊	八、四九八	—	八、五四四	九九·三
七、四五三	—	九戸	七、一三九	—	七、二〇六	九九·三
五、九三九	—	二戸	五、五二四	—	五、五四七	九九·一
九二、七二七	—	計	三六一	—	八九、六七六	九九·六

育教

種別	區設別立	校數	教員	生徒	徒入學者	卒業者
高等農林學校	官立	1	54	401	177	155
醫學專門學校	私立	1	28	583	133	140
師範學校	縣立	2	40	495	138	163
中等學校	同	5	97	2,439	564	471
高等女學校	同	9	101	3,565	769	598
農學學校	同	6	55	1,001	393	351
工業學校	同	1	15	233	81	65
商業學校	同	2	28	676	163	109
水產學校	同	1	11	154	40	33
盲啞學校	同	1	4	93	34	20
中學	同	1	6	150	39	1
實科高等女學校	同	1	8	127	36	27

官立私立諸學校

育教

設立區別	園	數保	姙	幼		兒計
				男	女	
實科高等女學校	町立	1	3	24	384	185
商業學校	同	1	1	9	108	117
中學	私立	1	1	15	350	108
商業學校	同	1	1	9	108	117
高等女學校	同	2	2	26	43	16
女子商業學校	同	1	1	12	608	233
女子實業學校	同	1	1	7	40	64
女子職業學校	同	1	1	7	40	64
各種學校	同	3	3	21	117	84
合計		11	11	101	1,770	638

育 教

類 別	縣	市	町	村	計
公 學 收 入	四六四、八二一 円	八二、二二七 円	一、八五三、九二七 円	二、四〇一、九六五 円	二、四〇一、九六五 円
公 學 資 産	四、七四四、〇四五	一、三九六、五六三	九、九八四、九六六	一六、〇二五、五七四	

公 學 資 産 及 収 入

(昭和七年度)

昭 和 年 度	縣 費	市 費	町 村 費	計	一戸當 負擔額	一人當 負擔額
昭 和 七 年 度	一、三三八、八七四 円	三〇一、七四九 円	三、〇五〇、八六四 円	四、五八一、四八七 円	二八・三〇	四・五六
昭 和 六 年 度	一、二四一、二一九	二二五、八五〇	三、〇〇八、七〇七	四、五四五、六七六	二八・三一	四・五九
昭 和 五 年 度	一、二八五、一一三	二二九、八四六	三、三二五、五五一	四、七四〇、五〇九	二九・八六	四・九五
昭 和 四 年 度	一、四六九、九四三	三七九、〇八〇	三、四三七、六七五	五、二八六、六九八	三四・五三	五・五八
昭 和 三 年 度	一、二七三、七八三	四七〇、三三四	三、八一〇、〇〇七	五、五五三、一三三	三六・六八	五・九三

公 學 費

育 教

年 數 別	市 町 村 立 小 學 校	師 範 學 校	中 學 校	高 等 女 學 校	實 業 學 校	盲 啞 學 校
五 年 未 滿	一、二七七	一八	三三	八一	四四	一
五 年 以 上	〇△					
十 年 以 上	△ △	三〇	四九	三五	三四	九
十 五 年 以 上	△ △	八	一四	一七	二〇	
二 十 年 以 上	二七二	六	四	四	一〇	
二 十 五 年 以 上	一八三		三	一	六	
三 十 年 以 上	五					
計	三、二六〇 一三三	五三	一〇三	一三九	一一七	一〇

△印は實業補習學校専任教員、〇印は幼稚園保母なり
市町村立小學校は正教員其他の學校は有資格者のみの調査なり

教 員 在 職 率 數

二、社會教育

本縣立圖書館は大正十年十月十四日の創立で、之れを機會に管下町村に對し、公立圖書館の設立を慫慂したが、大正十三年 今上陛下の御成婚を記念として多數の設置を見、爾來其の數を増し、尙縣下各圖書館を以て岩手縣圖書館協會を組織し、各圖書館の聯絡研究に努めてゐる。

青年男女を訓育して、専ら信念と實力との啓培に努め、祖先傳來の日本精神を體現し、地方風教の作興及地方産業の進展に盡し、且新領土及海外への發展を圖り本縣の振興と皇國の興隆とに貢獻する地方中堅人物を養成する爲、昭和七年九月膽澤郡相去村に縣立六原青年道場を設置し、更に昭和八年八月より同分場として、下閉伊郡宮古町に海洋青年道場を設け専ら教導に力めてゐる。尙襄に拓務省委囑を受け滿蒙武裝移民候補者として秋田、青森、岩手の三縣の在郷軍人を收容して訓練を施した。

男女青年團は各市町村に設置され、之を包括して郡市男子及女子聯合青年團を、更に之を以て縣聯合青年團を組織し、又少年團も逐年其の數を増加するの趨勢である。又婦人會は成立日尙淺き爲、今尙搖籃時代にありと雖も、本年度に至りて俄に其數増加して漸次内容充實し來れり。

青年訓練所は大正十五年四月、青年訓練所令の發布さるゝと共に極力之が設置を獎勵したので、縣下各市町村に普く、又鑛山、農場或は各種學校に於ても、之が設置を見ることゝなつた。社會教育委員も本年度に至つて極力設置方を獎勵したる結果、其の設置殆んど縣下全般に互り、又成人教育機關として大正十五年以來縣下數箇所縣及文部省主催の下に成人教育講座を開設したが、逐年良好の成績を収めてゐる。

青年道場

種別	館數	圖書冊數	閱覽人員
私町縣	一	三、八八三	三九、三八九
計	一	九一、八〇五	一、二八、七三三
村	一	四、〇八六	五二、〇八三
立	一	一六七、七四	二九、一〇四
立	一	二〇〇	一、五〇

圖書

映畫教育機關として映寫機一臺、フィルム二十七種、八十七卷を備へ地方の求めに應じ巡回映畫會を開催し、各地共良好の成績を収めてゐる。

公衆体育獎勵の目的を以て体育主事を設置し、斯道の指導助成に努めてゐる。

岩手縣佛教會は思想善導民風之作興に盡瘁し、岩手縣教化團體聯合會は教化運動を起し、其の實行に努むると共に郡市町村教化網の完成に努めてゐる。

名稱	設立月日	場長	主任	職員	助教士	修練回数	修練者數
岩手縣立六原青年道場	昭和七年九月二日	—	—	—	—	—	—
六原青年道場分場	昭和八年八月十八日	—	—	—	—	—	—
海洋青年道場	—	—	—	—	—	—	—

育教會社

種別	訓練所	主事	教員		生徒	年度內入所者	年度內修了者
			在鄉軍人	其他			
市立	七	七	三三	二九	四八七	二二二	三〇
町立	七	七	一、三四	五	一八、九二九	六、〇三六	一、五八六
私立	二	二	一、一〇	三八	一、九五三	六、〇三六	一、五八六
計	三〇	三〇	二、〇四〇	六六	一八、五四四	六、二八三	一、六四〇

青車訓練所

所在地	團體	正員	副員	本年度收入		計	本年度支出總額
				寄附金	其他		
市	八	三九	二五九	一七六	四八	三〇七	四八三
町	三〇	二、〇六六	二、二四	九七四	一、八五六	五、九二〇	五、〇六六
村	二四	三、一三八	七、七六一	二、三五二	二、九九五	三三、〇七二	二八、〇三四
計	二七三	三、八七二	七、三九	三、三七四	一、五八	三八、五二三	三三、五八三

育教會社

團體	加盟	體		正團員	正團員外	資產	經費
		正員	副員				
團	一六	三六〇	三〇	四〇六	八八、三八九	二、三五〇	二、九一六
赤十字							三、七二九
其他							
計							

男女少壯團

所在地	團體	正員	副員	本年度收入		計	本年度支出總額
				寄附金	其他		
市	八	二〇	一七三	一	四九八	六二四	五九三
町	二九	九七	一、五四三	八六〇	四〇三	二、二八二	一、七八八
村	二五九	八四四	五、九四〇	二、九〇七	五〇六	一〇、三三三	八、二八八
計	二九六	九六一	一、四一三	三、七七一	五六一	一三、二三九	一〇、六六九

女子青壯團

業事會社

二二、社會事業

社會狀態の比較的平穩な本縣は、從來商工業の盛んな都市を中心としての施設が多かつたが、近來農村社會事業の唱導さるゝに伴つて、兒童保護施設の一として託兒所の開設を見、或は恩賜財團濟生會及赤十字社支部の巡回診療班の活動、住宅組合の設立、公益質屋の増設等本縣社會事業は、逐年發展し社會事業協會も昭和七年三月設立され着々事業を進行されてゐる。

養育院及感化院

名稱	設立の區別	職員數	收容人員		經費
			男	女	
岩手惠風園	縣立	七	三	三	四、二〇〇
岩手養育院	(私立)財團法人	三	一	五	四、八五九
岩手養老院	個人經營	二	二	三	二、九三五
杜陵學園	縣立	三	一	二	三、八九五
岩手保護院	社団法人	四	一	一	二、〇七九
盛岡無料宿泊所	個人經營	二	一	一	二、六六八
院外			計	月平均	
			一、五〇六	一、三	五、八

業事會社

赤十字社及愛國婦人會

組合名稱	住所	組合員數	貸付金額	建築戸數	赤十字社		愛國婦人會	
					正社員	贊助員	正社員	普通會員
赤十字社	鳳有功章及特別	一、四八八	一、〇三〇	二五	三、三三七	一、八二九	四、四四四	
愛國婦人會	特別維持特別會員	一、〇八一	七、六三三	三三、五七三	一、五九二	七、七三四	一、〇八一	
住宅組合		六九九	六七、六〇〇	六九九				
公益質屋		三六	五〇、六〇三	最高一口二付三〇圓一世帯二付一五〇圓				
經營主体		德發行	公益	寄附	計			
市町村		緝獲褒賞拜受者	褒狀を賜ひし者	金員を賜ひし者	計			
		四、八七六	四、八七六	四、八七六	四、八八〇			

事 兵

二三、兵 事

昭和七年度縣内の壯丁受檢成績は、受檢總數一萬二百四十二人中、甲種合格二・七割、乙種三・〇割、丙種三・六割、丁種七分で、トラホーム患者は百人中一一・〇人、花柳病は〇・三〇人である。

又海軍志願兵は受檢者九百一人で、中合格者百八十五人、受檢者百に付一七・五人で、志願受檢者は前年に比して百三十九人を減じた。

衛 成 諸 隊

騎兵旅團司令部
騎兵聯隊

二一 工兵大隊
聯隊區司令部

一一 憲兵分隊
衛戍病院

一一

在郷軍人會

分會	聯合町村	將校	准士官	下士	兵	補充兵	計	經費
一四	三四五	四四三	一三〇	九三八	一九八三	三、七七三	四四、一五	四、〇四四

壯 丁

事 兵

軍海 兵志	應狀生衛	體 格 及 教 育 程 度						計
		甲	乙	丙	丁	戊	計	
志願(受檢)	九、八七	五	一	三	九	五	五	二、五九四
合格	一、〇八六	一五五	一	四	八	二五	一七	七八〇
採用	三三	九三八	一	二八	四四三	一九一	一五	二、〇〇四
付合格者百に	一一〇	五、四〇一	四	二九三	二、一六七	一、〇六六	六四七	二、〇〇四
付病	〇・三〇	三、三三八	五	二七一	一、三〇五	六四七	二〇六	二、〇〇四
		三三二	一	五	一九	六三	一七	七八〇
		三八	一	二四	八	四	一	二、五九四
		一〇、二四三	一一	六七六	四、一七七	二、〇〇四	一	二、五九四

生衛健保

保險醫 三三九	保險齒科醫 五六	藥劑師 三五	產婆 三五	件 一八、三六七	療 二五、六六六	診 四九、九〇五	費 一九、五〇一	給 付	其他 四九、四
強 六、七二	制 三	保 七、三四五	任 七、六三三	意 三、六六四	調 七、六三三	定 三、六六四	額 三、六六四	保 額	損 額
赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病
赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病
赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病
赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病
赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病
赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病
赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病
赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病	赤 病

本縣の昭和八年末現在醫師は四百三十四人で、人口三千三百七十八人に對し一人に當り、齒科醫師は八百八十六人で人口九千五百五十九人に對し一人の割合となつて居る。其の他産婆六百二十人、藥劑師七十六人、看護婦三百九十九人を算するけれども、全然醫師の存しない町村は九十六、幸にして私立醫學專門學校の設立を見たので追々普及を見るに至るであらう。

二五、保健衛生

會教寺社

國幣小社 一	縣社 二〇	郷社 三三	村社 四三	無格社 五〇	計 九〇	右の内 二二三	供進 社
天合宗 七三	眞言宗 三六	淨土宗 三六	臨濟宗 三〇	曹洞宗 三〇	眞宗 三〇	日蓮宗 二九	其時 計
ハリストス正教 四五	天正教 三五	浸禮基督教 二六	日本基督教 二六	同 二六	同 二六	同 二六	其計
天理教 一七	修正派 一七	神道 四四	大神教 四四	大光教 二七	金光教 二七	神習教 二七	御實 計
天理教 一七	修正派 一七	神道 四四	大神教 四四	大光教 二七	金光教 二七	神習教 二七	御實 計
天理教 一七	修正派 一七	神道 四四	大神教 四四	大光教 二七	金光教 二七	神習教 二七	御實 計
天理教 一七	修正派 一七	神道 四四	大神教 四四	大光教 二七	金光教 二七	神習教 二七	御實 計
天理教 一七	修正派 一七	神道 四四	大神教 四四	大光教 二七	金光教 二七	神習教 二七	御實 計
天理教 一七	修正派 一七	神道 四四	大神教 四四	大光教 二七	金光教 二七	神習教 二七	御實 計
天理教 一七	修正派 一七	神道 四四	大神教 四四	大光教 二七	金光教 二七	神習教 二七	御實 計

二四、社寺及教育

本縣内の神社は九百九十、之が神職二百五十五人で、寺院は五百八十三、住職四百八十八人で曹洞宗が最も多い、又教會は三十三、布教者二十八名で教務所及説教所は六十八を數へ天理教は右の中約七・〇割に當つて居る。

保安

二六、保安

本縣の消防事業は遠く幕政時代、南部侯が消防の法を布きて藩士を以て火消衆を組織されたことが其の初めであつて、爾來異常な發達を來し、今や本縣の消防組は二百十三、組合總數二萬九千六百九十七、備ふる機械は最新科學を應用した優秀なものだけでも百臺を超過するの現狀である。

火災及消防

火災		消防	
失火	原因不詳	組數	組員
三六八	一〇	二三	二二
度	計	組	計
放	住家	頭	昭和五年度經費
火	非住家	小頭	一五九、四七三
原因不詳	六八六	頭	二九、六九七
數	六九、五〇六	消防手	二八、五三六
計	平方	員	九四五
	米數		副
燒失棟數	六六、七五四		三三
同平方米數			汽防
損害概價			ガソリン
			自動車
			其他
			計
			七四
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕
			消
			用
			蒸
			汽
			防
			一三
			腕

二八、財政

本縣昭和八年度歳入總額は九百二十六萬二千八百七十三圓で、其の主なるものは國庫補助金三百五十一萬八千三百圓(歳入總額の三割八分)縣稅二百三十九萬三千八百七十六圓(同上二割六分)縣債百二十六萬五千六百圓(同上二割四分)雜收入百六萬二千二百七十三圓(同上二割一分)で又歳出總額は八百六十四萬四千七百七十五圓で、此の中教育費一割四分、縣債費〇割八分、時局匡救町村土木事業助成費一割二分、土木費〇割一分、時局匡救繼續費本年度支出額一割一分時局匡救土木事業費一割二分、警察費〇割六分、時局匡救勸業費〇割五分を占めてゐる。尙市町村の歳入總額は昭和七年度に於て一千二百二十八萬二千七百三十四圓で、此の内二割八分は稅收入に依る。又歳出は一千八百五十五萬四千圓で、教育費大部を占め、三割三分に當り次は役場、役所費の一割四分が主なるものである、一市町村平均四萬二千九百七十五圓、一戸平均は六十二圓七十錢に當る。

昭和七年度諸稅負擔の狀況を觀ると、一戸平均直接國稅八圓、縣稅十四圓八十五錢、市町村稅十九圓十六錢、總額四十二圓二錢である、又一人當りは國稅一圓二十九錢、縣稅二圓四十錢市町村稅三圓十錢、計六圓七十九錢に當る。

種類	類別	縣有財產		縣有財產	
		市	町	市	町
土地	地物	三六、九三九、二九九	三、〇二八、二八九	三、〇二八、二八九	八〇
		三、八、九七六			
船舶	金員				
土地	地物	九一、六五〇	六、一三九、一六	三、四、〇〇〇	四七四、九五〇
土地	地物	一、三〇〇	三、七、四四五	六〇〇	一、二、九六〇
土地	地物	三、〇七三	二、〇、二七三	六、九〇九	七、一、四八六
土地	地物	九〇	六三、三七四	二、一八〇	四、九三三
土地	地物	九六、一三三	九、三、四三、六四九	三三、六八九	七、一〇、二四三
合計					

政財

郡市名	盛岩紫稗和膽西江東氣下九二		徵收	前年度	比	較	件處滯 數分納	同上稅額
	計	閉閉 磐磐						
岡手波貫賀澤刺井井仙伊伊伊戶	三六〇、五三一 二七三、八七五 一八三、二九〇 二五、二六六 二二六、七三六 三、五、三七六 二〇五、三三三 二四、四四七 二六六、二二二 三三六、七五七 三三、六二七 三四一、〇三三 二三五、八二三 一八七、一〇一 三、六五九、四〇八	三三三、〇四二 二二九、〇四二 一七、六七八 二一七、六三六 二二〇、九八八 二七四、三七一 一九二、三三二 二二四、三三六 一八五、六〇七 二四、四九四 二四、四九四 二四、四九四 二四、四九四 二四、四九四 二四、四九四	〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六	〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六 〇・八九六	〇・〇二四 〇・〇二四 〇・〇二四 〇・〇二四 〇・〇二四 〇・〇二四 〇・〇二四 〇・〇二四 〇・〇二四 〇・〇二四 〇・〇二四 〇・〇二四 〇・〇二四 〇・〇二四 〇・〇二四	〇・〇〇三 〇・〇〇三 〇・〇〇三 〇・〇〇三 〇・〇〇三 〇・〇〇三 〇・〇〇三 〇・〇〇三 〇・〇〇三 〇・〇〇三 〇・〇〇三 〇・〇〇三 〇・〇〇三 〇・〇〇三 〇・〇〇三	一四、六三一 九三 一六六 四七二 五三三 六九七 八三〇 六八七 五三三 一、〇三六 二七〇 一〇五 四一八 五三八	八七、四九六 四一二 三、四九七 二、一八九 六、四六八 三、三六七 五、二六三 二、二七七 二、一〇七 五、四一七 三、三七七 一、五五三 一、五八〇 一、五八〇 一、五八〇

市町村稅納稅成績

(昭和七年度)

政財

郡市名	盛岩紫稗和膽西江東氣下九二		納期內	納期後	缺損額	翌年度 繰越額	納期內 納付歩合
	計	閉閉 磐磐					
岡手波貫賀澤刺井井仙伊伊伊戶	二八〇、〇五九 二二、一三五 一七八、九八三 二二四、七六九 二二、一六二 二二、一六二 二二、一六二 二二、一六二 二二、一六二 二二、一六二 二二、一六二 二二、一六二 二二、一六二 二二、一六二 二、四九三、四七八	六二、三六四 一三八、三二七 一七、九四四 一三、〇三四 一一、二六四 一四、七三三 九、八四一 八〇、八六二 一〇七、五三四 九二、五六七 一六一、二五五 一三九、七一九 一〇〇、〇三三 九、〇八六	一九九、〇六五 六七、九八六 五九、二七七 九一、二八五 九六、二八二 一〇九、〇九一 三、一八七 九三、六二九 三、三六二 三、三六二 三、三六二 三、三六二 三、三六二 三、三六二 一、一四七	一九九、〇六五 六七、九八六 五九、二七七 九一、二八五 九六、二八二 一〇九、〇九一 三、一八七 九三、六二九 三、三六二 三、三六二 三、三六二 三、三六二 三、三六二 三、三六二 一、一四七	二三五 二三五 二三五 二三五 二三五 二三五 二三五 二三五 二三五 二三五 二三五 二三五 二三五 二三五 二三五	一八、五九五 一、七九九 一、七九九 二、二九六 四、〇八七 七二八 三九九 一一、二一〇 一、一〇八 一、一〇八 一、一〇八 一、一〇八 一、一〇八 一、一〇八 一〇〇、八一九	〇・二二二 〇・六九五 〇・六五八 〇・五八二 〇・五八二 〇・五八二 〇・五八二 〇・五八二 〇・五八二 〇・五八二 〇・五八二 〇・五八二 〇・五八二 〇・五八二 〇・五八二

縣稅納稅成績

(昭和八年度)

市町村平均	其雜電勸會補警衛社公寄基土諸役教	氣 會 本 稅 場	支事業議助備生事債附產木及役育	業 業 業 業 業 業 業 業 業 業	他出費費費費費費費費費費費費費費費	昭	和	年	度
一一	一	一	一	一	一	昭	和	七	年
一	一	一	一	一	一	和	和	六	年
一	一	一	一	一	一	昭	和	五	年
一	一	一	一	一	一	昭	和	四	年
一	一	一	一	一	一	昭	和	三	年

附 録
岩 手 の 案 内

國 寶	二	林 業	五
史蹟名勝と天然記念物	五	畜 産 業	五
名勝と舊蹟	八	水 産 業	六
神社と佛閣	一五	鑛 業	六
山岳と温泉	二三	商 工 業	六
海濱と河川	二九	主なる副業	六
官公衙と學校	三三	名物名産	六
市 町 村	三九	農 産 物	七
産業組合	四〇	林 産 物	七
教 育	四二	礦 山 物	七
社會教育	四四	水 産 物	七
社會事業	三七	工 産 物	七
農 業	四八	菓 子 類	八
		其の他飲食品	八
		震 災	八

寶國

國寶

(◎印は神社佛閣の項参照)

刀

(傳國長作)

伯爵南部利淳寄進

盛岡市縣社櫻山神社

毘沙門天立像(附二鬼坐像)

毘沙門天丈一丈三尺五分、
二鬼像三尺餘、嘉祥三年四
月三日慈覺大師の開基運慶
作

和賀郡十二鎗村毘沙門堂

吉祥天立像

丈五尺七寸七分右同斷
丈三尺三寸七分

同

和賀郡立花村毘沙門堂

◎毘沙門天立像

二天王立像二軀、丈五尺三
寸及五尺一寸

同

須彌壇

木製黒塗佛具紋螺鈿入八角
徑六尺

西磐井郡平泉村中尊寺經藏

一切經及箱

傳藤原清衡、基衡、秀衡所
藏、紺紙金泥、金銀泥、黃
紙宋版

同

中尊寺建立供養願文

北畠顯家卿書

同

寶國

天蓋 幡頭 華鬘 案 經架 磬架 最勝王經十界寶塔曼荼羅 螺卓 禮盤 螺燭臺 一字金輪佛坐像 大日如來坐像 阿彌陀如來坐像

木製、黒塗金箔圓形寶華唐
草模様 同金色堂
銅製(三枚) 同
銅鍍金天人毛彫(六枚) 同
木製塗器剝落(貳基) 同
木製黒塗螺鈿入(壹基) 同
紺紙金指濃彩(十幀) 同中尊寺山内大長壽院
木製、高二尺五寸 同
巾一尺一分、長二尺二寸 同
木製、高五寸一分、豎二尺
一寸七分、横二尺一寸七分 同
木製、徑八寸三分、高三尺 同
法橋定朝作、傳藤原秀衡朝
臣護持佛、丈二尺五寸四分
丈一尺八寸四分 同中尊寺
木造 同瑠璃光院
同中尊寺

寶 國

木 附銅磬孔雀文様一面架	銅 磬	千手觀音立像	大日如來坐像	藥師如來坐像	藥師如來坐像	聖觀音立像	十一面觀音立像	阿彌陀如來坐像	金色堂 覆堂	金色堂 本堂	金色堂 覆堂
同	孔雀文様 建長二年正月日 と施入の銘あり	木造	同	同	同	傳行基作	傳慈覺大師作	木造	正應元年惟康親王建立	内陳中壇方七尺三寸、四本柱 研出時繪十二光佛桁梁高欄等 花紋螺鈿入金堂内外皆金色 天仁二年藤原清衡朝臣建立	同
同大長壽院	同地藏院	同觀音院	同金剛院	同願成就院	平泉村闕伽堂	二戸郡淨法寺村天台寺	同	神貫郡花卷町勝行院	同	西磐井郡平泉村	同

史蹟名勝と天然記念物

毛越寺跡 (附鎮守社址)	無量光院址	膽澤城址	貌鼻溪	嚴美溪	盛岡石割櫻	明治天皇一關行在所	經藏
(史蹟)	(史蹟)	(史蹟)	(名勝)	(名勝及天然記念物)	(天然記念物)	明治九年七月奥羽御巡幸の 際同月三日、明治十四年八 月奥羽、北海道御巡幸の際 同月十六日行在所となりた る處にして主要部分は極め てよく舊蹟を存せり	天仁元年藤原清衡朝臣建立 建武四年二階建の上層を燒 き再建
西磐井郡平泉村	同	膽澤郡佐倉河村	東磐井郡長坂村	西磐井郡嚴美村	盛岡市内丸	西磐井郡一關町	同

史蹟名勝と天然記念物

(◎印は名勝舊蹟以下の項参照)
(×印は假指定のもの)

肥勝の舊蹟

岩

手 公 園

盛岡市内丸・盛岡驛より十五町(自動車)

往時不來方城又は福士館と稱し、慶長以後は盛岡城と唱へて南部氏代々の居城であつた、明治五年陸軍省用地となり、同廿二年南部氏拂下を受けて、同卅三年櫻山神社を奉祀し、同三十六年城址を改修して公園とする計劃を立て、同三十九年面積一萬五千坪の公園とした。

割 櫻

同 盛岡驛より十五町(自動車)

盛岡地方裁判所構内に在つて、高さ丈餘、根廻り五尺餘の老櫻一株、花崗岩の中心を劈いて挺出してゐる、そして花崗岩の高さは七、八尺、長さ二丈餘、幅八、九尺ある。

見

馴 松

同 餌差小路・盛岡驛より二十二町(自動車)

明治九年御巡幸の時、餌差小路菊地邸に駕を駐め給ひ同十四年復同邸を以て行在所に定め給ひ、園中の古松殊の外竅慮に適ひ名を「見馴松」と賜はつたが、十七年火災に罹つたので十九年御苑の稚松を下賜せられて植繼がしめられたのである。

高

松 の 池

盛岡市上田・盛岡驛より約二十町(自動車)

周囲の遊歩道は里餘に及び櫻樹を並植し四周の翠巒、影を映じ四時市民の散策地であり、池畔の神庭山には日露役の志士横川省三氏の銅像がある。

厨

川 柵 址

盛岡市・盛岡驛より約二十町(自動車)

永承以來康平五年滅亡まで、安倍氏の據つた所で、里人は今も安倍館と稱してゐる、安倍貞任の決戦の地であるが、後年藤原泰衡の隠伏したと傳へられる著名の柵址である、附近に八幡森、方八町等の遺跡がある。

葛根田玄武洞及鳥越瀑布

岩手郡西山村・雫石驛より二里

葛根田川の北岸玄武岩重疊峙立して洞窟を形成し其の洞内高さ五、六尋、幅凡三十間、奥行約八間、頗る壯觀である。玄武洞より葛根田川を逆ること一里で鳥越瀑布に至る、水勢漲り落つること百六十二尺、幅十八尺乃至四十尺、靉靄山谷に震ひ盛夏尙肌の寒きを覺ゆる。

啄

木 の 碑

岩手郡遊民村・好摩驛より約二十町

近代の詩人石川啄木の歌碑で、岩手、姫神の二峰指呼の裡にあり、啄木が郷に在りし時好んで逍遙した地である、揚柳新緑の候風景最も佳、故人の作品に收められて居る。

今松堅穴居住地

岩手郡一方井村・沼宮内驛より約一里

日本史蹟の好材料として考古者の注目する所之を掘發すれば土器、石器、曲玉の類等鐵器様のものを得ることがあり、其の形状より察して餘程進化したものが住居せるならんとの説がある。

志 波 城 址

紫波郡古館村・日詰驛より一里(自動車)

肥勝の舊蹟

岩

手 公 園

盛岡市内丸・盛岡驛より十五町(自動車)

往時不來方城又は福士館と稱し、慶長以後は盛岡城と唱へて南部氏代々の居城であつた、明治五年陸軍省用地となり、同廿二年南部氏拂下を受けて、同卅三年櫻山神社を奉祀し、同三十六年城址を改修して公園とする計劃を立て、同三十九年面積一萬五千坪の公園とした。

割 櫻

同 盛岡驛より十五町(自動車)

盛岡地方裁判所構内に在つて、高さ丈餘、根廻り五尺餘の老櫻一株、花崗岩の中心を劈いて挺出してゐる、そして花崗岩の高さは七、八尺、長さ二丈餘、幅八、九尺ある。

見

馴 松

同 餌差小路・盛岡驛より二十二町(自動車)

明治九年御巡幸の時、餌差小路菊地邸に駕を駐め給ひ同十四年復同邸を以て行在所に定め給ひ、園中の古松殊の外竅慮に適ひ名を「見馴松」と賜はつたが、十七年火災に罹つたので十九年御苑の稚松を下賜せられて植繼がしめられたのである。

高

松 の 池

盛岡市上田・盛岡驛より約二十町(自動車)

周囲の遊歩道は里餘に及び櫻樹を並植し四周の翠巒、影を映じ四時市民の散策地であり、池畔の神庭山には日露役の志士横川省三氏の銅像がある。

厨

川 柵 址

盛岡市・盛岡驛より約二十町(自動車)

永承以來康平五年滅亡まで、安倍氏の據つた所で、里人は今も安倍館と稱してゐる、安倍貞任の決戦の地であるが、後年藤原泰衡の隠伏したと傳へられる著名の柵址である、附近に八幡森、方八町等の遺跡がある。

葛根田玄武洞及鳥越瀑布

岩手郡西山村・雫石驛より二里

葛根田川の北岸玄武岩重疊峙立して洞窟を形成し其の洞内高さ五、六尋、幅凡三十間、奥行約八間、頗る壯觀である。玄武洞より葛根田川を逆ること一里で鳥越瀑布に至る、水勢漲り落つること百六十二尺、幅十八尺乃至四十尺、靉靄山谷に震ひ盛夏尙肌の寒きを覺ゆる。

啄

木 の 碑

岩手郡遊民村・好摩驛より約二十町

近代の詩人石川啄木の歌碑で、岩手、姫神の二峰指呼の裡にあり、啄木が郷に在りし時好んで逍遙した地である、揚柳新緑の候風景最も佳、故人の作品に收められて居る。

今松堅穴居住地

岩手郡一方井村・沼宮内驛より約一里

日本史蹟の好材料として考古者の注目する所之を掘發すれば土器、石器、曲玉の類等鐵器様のものを得ることがあり、其の形状より察して餘程進化したものが住居せるならんとの説がある。

志 波 城 址

紫波郡古館村・日詰驛より一里(自動車)

蹟舊と勝名

志波城は後に比爪館(一名樋爪館)と稱し、延暦二十二年志波城使左近衛中將坂上田村麿が築いて、夷賊の來寇に備へた所であると謂はれてゐる。

勝源院の榎樹 紫波郡日詰町・日詰驛より約三十町(自動車)

樹齡約千年地上より四肢に分れ、數多の幹枝を生じ最も太いもの周囲は十五尺、高さ三十尺、四方を蔽ふこと枝毎に凡六十尺に達してゐる。

花巻城址 稗貫郡花巻町・花巻驛より五町(自動車)

古は鳥谷ヶ崎と稱し、安倍頼時の本據地であつたが、建久の頃より稗貫爲重此所に居り數十世相繼ぎ、天正年中に至り關白秀吉より領地を沒收された。

和賀展勝地 和賀郡立花村・黒澤尻驛より約十五町(自動車)

黒澤尻町の東部立花村一帯の丘陵で、北上川に沿ひ、男山、岡見山、珊瑚岳等の丘陵起伏し、之に登れば眺望が雄大で又櫻の名所として聞え遊園地となつて居る。

銀杏岡の公孫樹 和賀郡十二箇村・晴山驛より約五町

地上五尺の所で周圍二丈五尺有餘、幹の高さ百二十尺、樹齡は千年以上であらうと謂はれてゐる。

膽澤城址 膽澤郡佐倉河村・金ヶ崎驛より(自動車)

蹟舊と勝名

平安朝時代陸奥鎮靜の爲めに設けた城であると謂ふ、延暦二十年坂上田村麿夷を征し閉伊村に至つて賊徒を破り翌年膽澤城を築いた、城址は平地で東は北上川に臨み、北は膽澤川を控へてゐる。

水澤公園 膽澤郡水澤町・水澤驛より十町(自動車)

明治十年有志が謀つて珍花奇木を植ゑ、更に明治三十三年五月東宮御慶事記念として其の規模を擴張した、園中同町出身後藤新平伯の銅像及贈正四位高野長英の碑がある。

緯度觀測所 膽澤郡水澤町・水澤驛より十五町(自動車)

明治三十九年九月文部省の創設で、西曆一千八百九十八年萬國測地學總會に於て選定した地球上四觀測所中の一で、東經百四十一度七分三十秒、北緯三十九度八分三秒六乃至七の位置に在る。

衣川柵址 膽澤郡衣川村・前澤驛より約一里

衣川橋上流約六町の地點に在つて往時安倍頼時同貞任の居城で、貞任が義家と應答し「年を経し糸の亂れの苦しさに」と詠じたのは即ち此所であると言はれて居る。

平泉館址 西澤井郡平泉村・平泉驛より六町(自動車)

清衡、基衡の居つた所は柳御所、秀衡の居つた所は伽羅御所(或は喜樂館)又は御所屋敷と稱した。

蹟舊と勝名

判

官 館 址

西磐井郡平泉村・平泉驛より六町(自動車)

源義經が逃れて秀衡の許に來り投じた時の居館として有名である、義經堂には義經の像を安置し、天和三年の建立であるが、寶曆になつて白旗神社と改められた。

關

址

同・平泉驛より二十二町(自動車)

中尊寺と高館との間に關神社がある、此の北麓は即ち關址である。

毘 櫓 址

同・二十八町(自動車)

中尊寺北西十町衣川沿岸に在つて貞任の庶兄成道の據つた所で、秀衡の三男泉三郎忠衡亦之に居つたので泉ヶ城とも謂ふてゐる。

谷

窟

同・平泉驛より約一里(自動車)

延暦二十年坂上田村麿が朝命に依つて東夷征討の際、高丸惡路王等の賊徒を滅滅し、平賊祈願の報賽として山城國鞍馬寺に模して、九間四面の堂を建て慈覺大師作百八軀の多聞天を安置した。

伊達吉村誕生地

東磐井郡大原町・摺澤驛より約二里(自動車)

仙臺藩五代中興の英主伊達吉村の誕生地で、俗に御産屋址と言つて居る、附近に八幡神社御手植櫻、琵琶石等の遺跡がある。

布 佐 窟

東磐井郡門崎村・門崎驛より約十八町(自動車)

蹟舊と勝名

王

子 陵

氣仙郡盛町・大船渡驛より約五町(自動車)

推古天皇丁巳五年寶野臣尾張皇子に隨つて陸奥に降り、後寶野信家に至り佐倉里(現在の愛宕山)に社殿を建立し繁宮と稱して尾張皇子の神靈を鎮祭し奉つた所と傳へられてゐる明治三十年此の地中より長三尺六寸、根基一尺餘、上部八寸表面に「王子陵」と刻した古碑を發見した。

東

禪 寺 址

上閉伊郡附馬牛村・遠野驛より約二里九町

建武中無盡和尚の開基にして、南部家領内由緒のある有名な道場で、近世は田祿百石を有し、現在の盛岡市東禪寺舊所在地である、其の遺址猶存在し無盡和尚の墓がある。

不

動 巖

上閉伊郡小友村・鱒澤驛より三十町

設龍神社の後にあつて、地上百八十尺巍然として空に聳え、其の岩根に泉池がある、池中に小嶋があつて不動尊を祀る、巖面に上り龍と稱して龍の形状がある、老松繁茂し四季の風景共に絶佳である。

湧

窟

下閉伊郡岩泉町・岩泉町より約二十町

全山奇岩を以て成る海拔二千六十二尺の宇靈羅山麓にある一大洞窟で、四時清水を湧出してる、洞内に水流幅三尺乃至十二三尺、水深三十尺穴の高さ五十尺に達する所もあり、小

蹟舊と勝名

舟を以て廻航すること約百間、其の奥は未だ究めたものがない、此の附近十餘ヶ所に先住民族の遺蹟として見るべき洞窟十餘ヶ所ある。

塚の碑 下閉伊郡山口村・宮古町より約四町

永和二年紀州の人僧雲公が五部大經の經文を一字一石に書いて、之を埋め一基の碑を建てたと云ふ、高さ八尺五寸、幅五尺餘、四言四句の銘を刻し雄渾な書である。

長 泉寺銀杏樹 九戸郡久慈町・久慈驛より八町(自動車)

周圍四十九尺高さ百尺、其齡千年餘を経たものと云ふ、此の樹に巨大な乳房狀の塊瘤數個あつて、其の皮を剥ぎ取つて乳量のないものに煎じて飲ませると効があると稱せられてゐる。

末 の 松 山 二戸郡浪打村・福岡驛より一里

有名な歌枕で、第三紀層水成岩より成つて岩石中海産貝類の化石を存する、人口に膾炙する古歌「波こさぬ」云々は實に此の地を詠んだものである。

鳥 越 觀 世 音 同・一戸驛より二十七町

鳥越山上絶壁の中央洞窟内に觀世音堂を建て、ある、山中の紅葉亦絶景で筈を曳くものが多い。

不 動 瀧 二戸郡荒澤村・荒屋新町驛より約一里(自動車)

櫻松神社背後の山中にありて、直下數十尺瀧の中段に不動尊を祀る、紅葉の名所である。

神社と佛閣

縣 社 櫻山神社 盛岡市・盛岡驛より十五町(自動車)

盛岡藩祖南部三郎光行及中興の祖、南部大膳太夫信直、利直及利敬の四侯を合祀する、岩手公園の東畔に在つて例祭は五月二十五、六の兩日である。

縣 社 八幡宮 同 八幡町・盛岡驛より二十五町(自動車)

元盛岡城内三社の一であつたが、延寶七年南部行信、今の八幡山に建設したので、譽田別尊を祀る、例祭九月十四日より三日間。

招 魂 社 同・盛岡驛より二十五町(自動車)

縣社八幡宮の傍に在つて社畔には成申の役の勤王家、日時隆之進、中島源三の碑及西南戦没者の碑がある。四月卅日五月一日兩日官祭執行。

縣 社 岩手山神社 岩手郡瀧澤村・瀧澤驛より二里二十町

岩手山の頂上にあつて、延暦二十年坂上將軍東征の時大己貴命、稻倉魂命、日本武尊を奉齊して國土鎮護を祈つたと云ふ、遙拜所は瀧澤村柳澤にある、近年登山するものが頗る多い、例祭陰曆五月二十五日。

御 堂 觀 世 音 岩手郡御堂村・沼宮内驛より三里

閣佛と社神

饒暉天皇の大同二年春、將軍坂上田村麿の創立に係り、本尊は十一面觀世音で僧了慶の開基である、天台宗に屬し比叡山延曆寺の末寺である。

報恩寺 五百羅漢 盛岡市米内・盛岡驛より二十町(自動車)

寺は貞治年中通山長徹和尚の開基にかゝり、もと南部守行之を三戸城下に建て、慶長六年現在の地域に移した、維新の際國老槍山佐渡が自刃したのは此寺で境内に七間四面の堂宇があり、大佛師駒野丹下の傑作五百羅漢像を安置してゐる。

大慈寺 盛岡市東中野・盛岡驛より十八町(自動車)

黄檗宗で、もと小利であつたが、元首相原敬夫妻埋骨の地として忽ち全國に其名を知られ、墓前香華絶ゆることがない。

蜂神社 紫波郡水分村・日詰驛より約一里(自動車)

源頼義、安倍貞任征討の時、陣營を布いた地であると傳へられてゐる。

縣社志賀理和氣神社 紫波郡赤石村・日詰驛より約五町(自動車)

延喜式神名帳所載の神社で猿田彦命を祭る。

縣社志和稻荷神社 紫波郡水分村・日詰驛より二里十八町(自動車)

天喜五年源頼義、安倍頼時を討ち、陣ヶ岡に滞在中の建立で稻倉魂命を祭る、後頼朝の再建に係ると傳へられてゐる。

太田清水觀音 稗貫郡太田村・花巻驛より二里(自動車)

大同二年坂上田村麿の建立で本邦三清水の一と稱せられてゐる、本尊はもと圓淨檀金三寸三分の十一面觀世音で、弘法大師作の木佛中に安置されたのである、緣日六月二十六、七日及七月九、十日。

丹内山神社 和賀郡谷内村・晴山驛より二十町

元仁、桓武の朝、征夷大將軍坂上田村麿東夷征討の際、此祀に祈り、賊を平げた後更に社殿を建て、又康平五年源頼義安倍貞任征討の時、八幡、加茂の兩宮を建て、後鎮守府將軍藤原清衡崇敬し、祀田二十四町を寄進し、百八の堂を建てたと傳へられてゐる。

成島の毘沙門天 同十二鎮村・土澤驛より一里(自動車)

毘沙門天木像は身長二丈、吉承天女木像は身長六尺、何れも運慶の作と稱せられ、大正十年國寶に編入せられた、毘沙門堂は嘉承三年三月慈覺大師の草創と傳へられる。

縣社早池峰神社 稗貫郡内川目村・石鳥谷驛より約六里(自動車)

大同二年大職冠鎌足の後裔、藤原實房の子兵部卿成房の建立するところである、祭日陰曆八月一日。

立花毘沙門堂 和賀郡立花村・黒澤尻驛より十五町(自動車)

緣起によれば仁明天皇嘉祥三年慈覺大師の開基で、助國山萬福寺と號し、天台宗であつた

が慶安年中和賀兵亂の際焼失し、今は毘沙門堂ばかり存して居る、本尊毘沙門天は慈覺大師の作、二天王は法橋定朝の作である、殊に二天王は製作が優れて古像の遺品に乏しい東北地方に於ける藤原期の造像として注目される。

國幣小社駒形神社

膽澤郡水澤町・水澤驛より十町(自動車)

祭神は天照皇大神或は豊受大神、又一説に大己貴命の御子御井神なりとも云ふてゐる、明治四年國幣小社に列せられた、祭日九月十九日。

縣社鎮守府八幡神社

膽澤郡佐倉河村・同一里(自動車)

延暦二十年征夷大將軍坂上田村麿の勸請に係るもので、譽田別尊、雅日靈尊、素盞男尊を祭るとも云ふ、後社殿焼失し天正十九年、正月關白秀吉淺野長政に命じて修理せしめた、寛文二年伊達氏亦修補し、地方有数の古社である。

正法寺

江刺郡黒石村・水澤驛より約二里(自動車)

佛殿の本尊は觀世音で春日の作釋迦文殊、普賢の像は當麻の作、彌陀の像は安阿彌の作と稱せられてゐる、貞和四年能州總持寺二代峨山禪師第一高足無底良詔和尚の開山で當時の領主長部清秀の開基である。

黒石寺

江刺郡黒石村・水澤驛より約二里(自動車)

天台宗にして天平元年釋行基の創建、延暦中兵火に罹り、藤原利仁勅を奉じ、大同年中東

中尊寺

西磐井郡平泉村・平泉驛より十六町(自動車)

境内東西七十町三十間、南北十三町、本山に仁明天皇の嘉祥三年慈覺大師の開基で、清和天皇貞觀元年勅して中尊寺の號を賜はる、堀河帝の時勅命ありて藤原清衡經營し、天仁二年に至りて堂塔四十、僧坊三百餘宇成る、建武四年野火延焼し堂宇烏有に歸し金色堂、經藏僅かに災を免る。

金色堂

同

天仁二年藤原清衡建立、中央境上には佛像十一軀を安置し、左右の境上亦同じ、定朝及運慶の作である、藤原氏三代の棺を納め、又秀衡の棺側には其子泉三郎忠衡の首桶ありと云ふ、本堂は七百十餘年を経、古色蒼然たり、覆堂は正應元年惟康親王の建立で、本堂は明治三十年十二月、覆堂は大正六年四月國寶建造物に指定された。

經藏

同

天仁元年清衡の建立するところで、もと二階建であつたが、建武四年の火災に上層焼失し其の残る所に修理を加へたものである、堂中八架を設け三代寄進する所の一切經を藏めて

關佛と社神

毛

ある。此外辯財元堂、寶藏大日堂等當時を偲ぶべきものが多く、山中到る處遺址に富み尋訪に違がない。

越

寺

西磐井郡平泉村・平泉驛より約五町(自動車)

嘉祥三年慈覺大師の開基で其作の薬師如来を本尊としてゐる、藤原清衡若干の寺領を寄進經營して秀衡に至り、堂塔四十餘宇禪房五百餘宇全く具はり、峻堂高樓四海の珍寶を以つてしたが、天龜天正の頃に至つて兵燹にかゝり烏有に歸したけれども大泉の池等今尙ほ址を留むるものが多い。

縣社配志和神社

西磐井郡山目村・山目驛より約六町(自動車)

人皇十二代景行帝之御宇四十年庚戌東夷命に逆ひ邊陲を擾亂するに至つて、帝殊の外怒り給ひ、日本武尊に斧鉞を授けて征伐の上、皇子詔を奉じ軍を帥ひ海に沿ふて遠く道の奥の國に入り、營を此の地に移し、親ら矛を藏め皇孫、高尊孫尊、産靈尊、木花開耶姬尊の神を奉祭し、蝦夷悉く誅戮して、萬民を綏撫し四海安寧を得たので、東の國が平定して神の功が大に顯れた、例祭五月一日。

無

量 光 院 址

西磐井郡平泉村・平泉驛より五町(自動車)

高館の南で、伽羅館址の西隣にある、秀衡の建立であつて、本尊は丈六の彌陀である、其

關佛と社神

傳

草 神 社

東磐井郡舞川村・一關驛より約二里十五町

莊殿皆宇治の平等院に模したのであつたが、天正年中焼失して今は礎石を存するのみである、俗に新御堂と號してゐる。

縣

社 室 根 神 社

東磐井郡折壁村・折壁驛より約一里

祭神は稻倉魂命、伊弉冉命で延喜式内の古社で、仁壽二年從五位下を授けられた、此の地は古來奥州刀工の發祥地と推稱されてゐる。

普

門 寺

氣仙郡米崎村・脇の澤驛より(自動車)

仁治二年京師建仁寺開祖明庵の子記外の開くところと言はれて居る、境内清淨で世塵を絶した名刹である。

鍋

倉 神 社

上閉伊郡遠野町・遠野驛より三町(自動車)

元遠野城に延元殉難贈正五位南部師行を祀り、政長、信光、政光等を配祀してゐる。

尾

崎 神 社

上閉伊郡釜石町・釜石驛より二里(自動車)

上閉伊郡第一の古社で昔鎮西八郎爲朝、伊豆大島に流された時妻を娶り男子四人を得、第

三子を爲頼と云ひ鳥の冠者と稱したが、源頼朝に閉伊郡の東部に封ぜられて承久二年六月卒したが諸臣相謀つて此の廟を建てたものと言はれてゐる。

横山八幡宮 下閉伊郡宮古町・宮古驛より(自動車)

古社で其の別宮は猿丸太夫の末であると傳へられてゐる。

縣社吞香稻荷神社

二戸郡福岡町・北福岡驛より約十五町

祭神は稻倉魂命で伊勢國度會郡山田原に鎮座、豊受姫命の別々靈であると傳へられ勸請年月は鮮かでない、天正十九年九戸政實の亂を避け津輕郡に遷座し、亂平ぎて後本郡の當時漆澤村に遷座、天和二年二月三日現位地に遷座せられて以來本郡の總鎮守として藩守累代の尊崇する所であつた。

黒森神社 下閉伊郡山口村・宮古町より約十五町

和銅年間の創建と傳へられ、元明帝の御時建立、速須佐雄命、大己貴命、稻田姫を祭るとも云ふ、近來長慶天皇の御陵墓として問題となつてゐる。

天台寺 二戸郡淨法寺村・一戸、北福岡各驛より約四里(自動車)

神龜五年聖武天皇の勅願によつて僧行基の開基する所で、大同二年田村磨堂宇を再建し、元中九年中南部守行修理し、明暦三年南部重直更に修造し、萬治元年十二月竣工、本尊聖觀世音の立像は行基の作として國寶に列せられた。

山岳と温泉

姫神 岩手郡遊民村、玉山村・巻堀村・好摩驛より約二里

標高四千九百尺、花崗岩から成つて他の諸山と特異の形相を具へ、遠望すれば略々三角形で岩手三名山の一として山姿頗る優秀、鈴蘭が密生してゐるので世に聞えてゐる。

岩手 岩手郡瀧澤村瀧澤驛より三里

南部富士又は奥の片富士とも云ふ、海拔六千八百三十一尺、貞享三年三月(二百數十年前)噴火して其の被害甚しく、翌年三月又鳴動し、其後享保年間及文政中にも噴烟鳴動があつた、噴火口の周圍二十六町餘、山頂の高山植物は種類や發生の状態を異にしてゐる特徴がある。

早池峰山 稗貫郡、上閉伊郡、下閉伊郡・石鳥谷驛より約六里

海拔六千五百八十七尺、高山植物帯の鶴頭山には北海道其の他北地の分子を含み、且當山固有の種類を産するので著名である。

蓬萊山 江刺郡田原村・東磐井郡猿澤村・水澤驛より六里

北上山脈に屬し海拔七百八十七尺、山中立岩には蓬萊神社を、大岩には旭岩神社を祀る、今山巔巖立して躑躅及紅葉の候が最も美觀である。

須

川

岳

西磐井郡巖美村・一關驛より約八里

標高凡そ五千三百尺、中腹には須川温泉及び眞湯温泉等あり、四季の眺望絶佳にして高山植物豊富、全国各地から登山者が蟻集する。

東

山

東磐井郡長島村・平泉驛より約一里(自動車)

駒形峠とも謂ひ、平泉と相對し、往時安倍頼時櫻樹一萬株を吉野山から移植して滿山花で埋つたと傳へられてゐる。

花卷温泉スロープ

稗貫郡湯本村・花卷温泉より五町

面積約三萬六千坪、五度乃至三十度の緩急斜面に恵まれ、殊に夜間の練習も出来る様照明装置を施し、休憩所及シャランツエの設けがある、平均積雪量三尺五寸位で十二月末から三月初旬迄滑れる。

高倉山スロープ

稗貫郡湯口村・鉛温泉より一町

登山向のスキー場で三萬坪の廣さで六十度の傾斜を爲し、雪は硬く平均積雪五尺位、十二月下旬より三月末迄滑れる。

奥中山スロープ

二戸郡小島谷村・奥中山驛より三町

約四萬五千坪で上半部は二十五度、下半部は二十度位の傾斜で競技場にも適して居る、粉雪に近い軟雪で平均三尺位の積雪、十二月中旬から三月中旬迄滑れる。

區界スロープ

下閉伊郡門馬村・區界驛より五町

登山向で約四十萬坪、二十度から三十度位の傾斜で技術を練るに適して居る、硬い粉雪で平均四尺位、滑れる期間は十二月上旬から三月下旬迄。

田山スロープ

二戸郡田山村・田山驛より約十町

第一スキー場は海拔四百四十二米餘の高所から、二十五度乃至四十五度の傾斜緩急斜面に恵まれ、一望の下にハキロユースの競技に適す、第二スキー場は海拔五百五十五米の高所から二十五度乃至五十度の傾斜をして、一周十八キロコースの競技に好適で、第一、二共最も雄大なスキー場である、粉雪で平均五尺以上、十二月下旬より四月中旬迄滑れる。

山口スロープ

和賀郡岩崎村・横川目驛より二十町

大小の丘陵緩急長短のスロープが幾つもおつて、練習に競技に恰好な場所である、總面積三萬坪、斜面は二十五度乃至四十度位、變化の多いのは此のスキー場の特長で、休憩所の設備あり、臨時に女子青年團經營の賣店も出来る、粉雪で平均五尺位、十二月下旬より三月中旬迄滑れる。

大荒澤スロープ

和賀郡湯田村・大荒澤驛より約五町

第一スキー場は面積三十萬坪七、八度より三十五度位の傾斜緩急斜面に恵まれ、變化多く直線三百五十米の滑降が出来十八軒のコースが採れる、第二スキー場は驛より百米斜面は

泉温と岳山

花

卷 温 泉

稗貫郡湯本村・花巻驛より(電車)

二十度位、面積約一萬坪五畝のコースが採れる。
温泉電車は省線の發着毎に連絡してゐる、泉量豊富、無色透明な塩類泉で慢性佝僂質私、婦人病、神經諸病、胃腸病、皮膚病等に特効があると云はれてゐる、旅館、自炊寮、貸別荘、講演場、運動場、遊戯場、スキー場、ゴルフ場等の設備完全で、優に一千人を收容するに足る。

臺

温 泉

稗貫郡湯本村・花巻温泉驛より約十町(自動車)

花巻温泉遊園地に接近して自然の景勝に富んで居る、嘉慶元年の發見で源泉十數箇所、鹽類泉で脚氣、中風、痔疾、疝氣等に効驗がある。

志

戸 平 温 泉

稗貫郡湯口村・花巻驛より(電車)

發見の年代が詳でないが、一説には延暦年間坂上田村麿蝦夷征討の際流矢に中りて惱み、此の温泉に浴して創傷が癒つてから、里人が其奇効を稱して温泉場としたと云はれてゐる創夷、皮膚病に卓効がある。

大

澤 温 泉

稗貫郡湯口村・花巻驛より(電車)

寛永三年の改築で、豊澤川溪谷に介在して青山水白幽邃閑雅の仙境である、六百の浴客を容る、に充分である。

温 泉

稗貫郡湯口村・花巻驛より(電車)

寶曆年間の發見で天明八年に浴場を設け、現今一年間の浴客は數萬と稱せられて居る、質及醫治効能略々志戸平、大澤と同じである。

西

鉛 温 泉

稗貫郡湯口村・花巻驛より(電車)

明治二十二年の發見で同二十四年浴室を建築した、溪間廣く空氣の爽かさと水の清らかさ水の清らかさは他の浴場に勝つて好避暑地である。

繁

温 泉

岩手郡御所村・小岩井驛より約一里(自動車)

承平三年の發見と傳へられ、曾て源義家が安倍貞任を追撃して此處に至り、乗馬を繋留して沐浴してから此の名がある、泉質硫黄であつて、温度七十七度、疥癬諸瘡に効がある。

鶯

宿 温 泉

岩手郡御所村・雫石驛より二里

幽僻の山間に在つて、點々する旅舎の前は清流溪々として晝夜の別なく河鹿の聲を聞くことが出来、眞世に塵を脱した仙境である、打撲、切傷及中風症に効があると云はれてゐる。

國

見 温 泉

岩手郡御明神村・橋場驛より約三里

駒ヶ嶽山麓風光絶佳の地にあつて、特に痔疾、花柳病等に効驗がある。

網

張 温 泉

岩手郡西山村・雫石驛より二里十八町

網張より湧出する鱗泉を引下げ浴場を建設してある、泉源は和銅年間の發見で帝釋温泉とも稱してゐる、風景佳く織塵動かず仙境の概がある。

泉温と岳山

網 國 鶯 繁 西 鉛

寶曆年間の發見で天明八年に浴場を設け、現今一年間の浴客は數萬と稱せられて居る、質及醫治効能略々志戸平、大澤と同じである。
明治二十二年の發見で同二十四年浴室を建築した、溪間廣く空氣の爽かさと水の清らかさ水の清らかさは他の浴場に勝つて好避暑地である。
承平三年の發見と傳へられ、曾て源義家が安倍貞任を追撃して此處に至り、乗馬を繋留して沐浴してから此の名がある、泉質硫黄であつて、温度七十七度、疥癬諸瘡に効がある。
幽僻の山間に在つて、點々する旅舎の前は清流溪々として晝夜の別なく河鹿の聲を聞くことが出来、眞世に塵を脱した仙境である、打撲、切傷及中風症に効があると云はれてゐる。
駒ヶ嶽山麓風光絶佳の地にあつて、特に痔疾、花柳病等に効驗がある。
網張より湧出する鱗泉を引下げ浴場を建設してある、泉源は和銅年間の發見で帝釋温泉とも稱してゐる、風景佳く織塵動かず仙境の概がある。

泉温と岳山

花

卷 温 泉

稗貫郡湯本村・花巻驛より(電車)

二十度位、面積約一萬坪五畝のコースが採れる。
温泉電車は省線の發着毎に連絡してゐる、泉量豊富、無色透明な塩類泉で慢性佝僂質私、婦人病、神經諸病、胃腸病、皮膚病等に特効があると云はれてゐる、旅館、自炊寮、貸別荘、講演場、運動場、遊戯場、スキー場、ゴルフ場等の設備完全で、優に一千人を收容するに足る。

臺

温 泉

稗貫郡湯本村・花巻温泉驛より約十町(自動車)

花巻温泉遊園地に接近して自然の景勝に富んで居る、嘉慶元年の發見で源泉十數箇所、鹽類泉で脚氣、中風、痔疾、疝氣等に効驗がある。

志

戸 平 温 泉

稗貫郡湯口村・花巻驛より(電車)

發見の年代が詳でないが、一説には延暦年間坂上田村麿蝦夷征討の際流矢に中りて惱み、此の温泉に浴して創傷が癒つてから、里人が其奇効を稱して温泉場としたと云はれてゐる創夷、皮膚病に卓効がある。

大

澤 温 泉

稗貫郡湯口村・花巻驛より(電車)

寛永三年の改築で、豊澤川溪谷に介在して青山水白幽邃閑雅の仙境である、六百の浴客を容る、に充分である。

温 泉

稗貫郡湯口村・花巻驛より(電車)

寶曆年間の發見で天明八年に浴場を設け、現今一年間の浴客は數萬と稱せられて居る、質及醫治効能略々志戸平、大澤と同じである。

西

鉛 温 泉

稗貫郡湯口村・花巻驛より(電車)

明治二十二年の發見で同二十四年浴室を建築した、溪間廣く空氣の爽かさと水の清らかさ水の清らかさは他の浴場に勝つて好避暑地である。

繁

温 泉

岩手郡御所村・小岩井驛より約一里(自動車)

承平三年の發見と傳へられ、曾て源義家が安倍貞任を追撃して此處に至り、乗馬を繋留して沐浴してから此の名がある、泉質硫黄であつて、温度七十七度、疥癬諸瘡に効がある。

鶯

宿 温 泉

岩手郡御所村・雫石驛より二里

幽僻の山間に在つて、點々する旅舎の前は清流溪々として晝夜の別なく河鹿の聲を聞くことが出来、眞世に塵を脱した仙境である、打撲、切傷及中風症に効があると云はれてゐる。

國

見 温 泉

岩手郡御明神村・橋場驛より約三里

駒ヶ嶽山麓風光絶佳の地にあつて、特に痔疾、花柳病等に効驗がある。

網

張 温 泉

岩手郡西山村・雫石驛より二里十八町

網張より湧出する鱗泉を引下げ浴場を建設してある、泉源は和銅年間の發見で帝釋温泉とも稱してゐる、風景佳く織塵動かず仙境の概がある。

瀧の上温泉

岩手郡西山村・磐石驛より約二里半
葛根田川の上流にあつて、旅舎が未だ完全ではないけれ共春夏秋冬の候に入浴するものが多
く、疝氣、皮膚病に特效があると云ふ。

湯本温泉

和賀郡湯田村・川尻驛より一里(自動車)
萬治二年の發見にして糠類泉である、胃腸病、神經病に効があると謂はれてゐる、和賀川
の清流に臨み紅葉の風光は特に佳絶である。

湯川温泉

和賀郡湯田村・川尻驛より一里(自動車)
四圍峰巒を繞らした仙境で夏季の浴客が多い、胃腸、神經病、婦人病、疝氣、病後の保養
等に特效がある。

須川温泉

西磐井郡殿美村・一關驛より八里
標高凡そ五千三百尺、有名な二重式層狀火山の須川嶽中腹にある、神經病、痲瘋質斯、胃
腸病、呼吸器病、黄痘等に特效がある、一關驛より途中瑞山迄自動車の便がある。

眞湯温泉

西磐井郡殿美村・一關驛より約六里
西嶽山中にありて佳景に富み、神經痛、胃腸病に効があると謂はれて居る。

嶽温泉

和賀郡岩崎村・藤板驛又は横川目驛より
夏油川水源地にあつて、夏油温泉とも云ひ温度攝氏五十九度乃至四十五度、單純温泉で寄
生蟲に依る貧血症、白血病及關節痲瘋斯等に効あり大湯等五ツに分れてゐる。

湯田ラヂウム温泉

二戸郡金田一村・金田一驛より十五町(自動車)
寛文十年の發見に係り糖類冷泉であつて「ラヂウム」を含有し、神經諸病及婦人病に効が
あると云はれてゐる。

安比温泉

二戸郡荒澤村・赤坂田驛より三里十町
海拔九百米の高地、安比川の水源地で山嶽四周を繞り、夏知らぬ避暑地である、秋は紅葉
によく、冬は雄大なスロープに恵まれ、胃腸病、リウマチス、神經痛、婦人病等に効くと
云はれて居る。

白澤鑛泉

上閉伊郡甲子村・釜石鑛山鐵道小佐野停留場より約一里卅町
通常小川温泉と稱し單純泉で、皮膚病に最も効驗があると云はれて居る、巖蒼たる山間部
に在つて風光絶佳、釜石町より自動車の定期運輸に依り逐年浴客増加の傾向である。

海濱と河川

嚴美溪

西磐井郡殿美村・一關驛より約二里(自動車)
須川岳を源とする磐井川は諸溪流を衆め東に走つて殿美に至り、山峽忽ち變つて殿美の瀧
となり、下流數町の間奇岩怪石磊々として奔流白雪を散らし、碧潭飛沫を呑み、實に本邦
屈指の奇勝である。

貌

鼻 東磐井郡長坂村・陸中松川驛より三十町(自動車)
砂鐵川兩岸の絶壁で、高さ數十丈、長さ十餘町に亘り其の斷岩は皆石灰岩より成る奇勝である。

慈 川 溪 流 九戸郡大川目村・久慈驛より約一里
久慈、葛巻間約五里、其の間奇勝多く、青山碧水の塵外境である。

高 田 松 原 氣仙郡高田町・陸前高田驛より約五町(自動車)

高田町南方海岸東西數十町、寛文年間に植栽された老松鬱蒼として、前は白砂波に洗はれ後は沼湖影を映じ、四季の景勝地で殊に海水浴場として名高い。

椿

島 氣仙郡廣田村・小友驛より約一里(自動車)

全島花崗岩から成つて長徑九十間、短徑三十間、高さ五丈餘、椿樹最も多く玉梢、接骨木、虎杖、羊蹄、蓬等之に亞ぎ、春夏の候は海鷗が産卵の爲に群集する、島上辨財天の小祠がある。

碁

石 濱 氣仙郡末崎村・細浦驛より約一里二十町(自動車)

太平洋に突出して奇岩怪石千態萬狀、黒杉で蔽ひ白灣が絶えず寄せ打るので、往時天然の碁石を産して、仙臺藩主に献じたと云ふ景勝の地である。

蛇

崎 氣仙郡小友村・小友驛より約二十町
東端の太平洋岸の岬で附近に古城址確社等の名稱が多い、四邊眺望絶佳只出濱は海水浴場

として好適である。

小

白 濱 氣仙郡唐丹村・大船渡驛より
青松白砂風光絶佳で、氣候温暖なれば避暑地に適し、殊に遠浅で海水浴場として遠近より購集する。

淨

土 濱 下閉伊郡宮古町・宮古驛より(自動車)

嶽ヶ崎灣内崔嵬たる岩石前後に突出し風光明媚の地で、しかも海面平靜なる海水浴場である、之に接した海岸に日出鳥嶋の濱あり、春夏の候遊杖するものが頗る多い。

江

戸 濱 九戸郡種市村・種市驛より五町

遠浅で海水浴に適し、南に窓岩の絶景あり、岩礁には各種の海藻繁茂し、又最近海水浴場附近丘陵に一萬五千七百餘坪の遊園地を設け逐年浴客増加の傾向である。

野

田 玉 川 九戸郡野田村・久慈驛より約四里(自動車)

日本六玉川の一として、古來有名な歌枕で河底往々恰も壁の様な圓石を出す、河口北丘陵の西行屋敷は西行の杖を駐めて近傍の風光を賞した地であると傳へられ其の附近は波靜に遠浅であつて海水浴場に適してゐる。

十

府 浦 九戸郡野田村・久慈驛より約三里(自動車)

中沼の海濱一帯を云ふので、其の中に一の古沼がある、多く菅を生じてゐる、古來菅蓆を産するを以て著名である。

官公衙と學校

校學と衙公官

- 岩手縣廳
- 下閉伊支廳
- 縣財務出張所
- 縣土木管區
- 縣工營所
- 縣勸業檢定所
- 縣勸業取締所
- 縣蠶業取締所支所
- 縣穀物檢査所

盛岡市内丸
 下閉伊郡宮古町
 盛岡市内丸・稗貫郡花卷町・膽澤郡水澤町・西磐井郡一關町・
 上閉伊郡釜石町・遠野町・二戸郡福岡町
 盛岡市内丸・稗貫郡花卷町・西磐井郡一關町・上閉伊郡遠野町
 下閉伊郡宮古町・九戸郡久慈町・二戸郡福岡町
 (以下臨時)膽澤郡水澤町・和賀郡黒澤尻町・下閉伊郡岩泉町・
 氣仙郡盛岡町・上閉伊郡釜石町
 岩手郡厨川村・和賀郡黒澤尻町・氣仙郡氣仙町・大船渡町・上
 閉伊郡釜石町・九戸郡久慈町・(久慈港)種市村・(久慈川)八木
 港)下閉伊郡小本村
 岩手郡本宮村
 盛岡市内丸
 盛岡市・稗貫郡花卷町・西磐井郡一關町・氣仙郡盛岡町・上閉伊
 郡遠野町・下閉伊郡宮古町・九戸郡久慈町・二戸郡福岡町
 盛岡市内丸

校學と衙公官

- 縣穀物檢査所出張所
- 縣木炭檢査所
- 縣木炭檢査所出張所
- 農業水利改良事務所
- 水澤緯度觀測所
- 縣測候所
- 縣農事試驗場
- 縣蠶業試驗場

盛岡市大澤川原・(九戸郡)輕米町・(二戸郡)福岡町・一戸町・
 (岩手郡)沼宮内町・卷瀨村・(紫波郡)煙山村・赤石村・(稗貫郡)
 石鳥谷町・花卷町・(和賀郡)十二鎗村・(上閉伊郡)遠野町・(和賀
 郡)黒澤尻町・(膽澤郡)前澤町・金ヶ崎町・水澤町・(江刺郡)岩
 谷堂町・(西磐井郡)一關町・花泉村・(東磐井郡)千厩町
 盛岡市内丸
 盛岡市仁王新築地・(稗貫郡)石鳥谷町・花卷町・(和賀郡)横川目
 村・(膽澤郡)水澤町・(西磐井郡)一關町・(岩手郡)沼宮内町・雫石
 村・(二戸郡)荒澤村・小鳥谷村・福岡町・金田一村・田山村・(九戸
 郡)種市村・輕米町・久慈町・野田村・葛卷村・山根村・下閉伊
 郡)普代村・田野畑村・小本村・岩泉町・田老村・茂市村・宮
 古町・山田町・門馬村・川井村・(上閉伊郡)大槌町・遠野町・上
 閉伊郡)氣仙郡)吉濱村・大船渡町・氣仙町・世田米村・(東磐井
 郡)摺澤村・黄海村・大津保村・(和賀郡)湯田村
 江刺郡岩谷堂町
 膽澤郡水澤町
 岩手郡淺岸村・下閉伊郡宮古町
 (本場)岩手郡本宮村・(分場)江刺郡愛宕村・九戸郡輕米町
 膽澤郡水澤町

校學と衙公官

縣水産試験場
 縣物産販賣斡旋所
 縣工業試驗場
 岩手種馬所
 種馬育成所
 縣種畜場
 縣模範牧場
 縣種鶏牧場
 縣商品陳列所
 縣立圖書館
 縣立杜陵學園
 縣公會堂
 縣警察講習所
 警署

上閉伊郡釜石町
 東京市神田區須田町
 盛岡市内丸
 岩手郡厨川村
 岩手郡瀧澤村
 岩手郡藪川村
 岩手郡卷堀村
 岩手郡卷堀村
 岩手郡卷堀村
 盛岡市内丸
 同
 盛岡市三ツ割
 盛岡市内丸
 同
 盛岡市・(岩手郡)沼宮内町・(紫波郡)日詰町・(稗貫郡)花卷町・
 (和賀郡)黒澤尻町・(膽澤郡)水澤町・(江刺郡)岩谷堂町・(西磐
 井郡)一關町・(東磐井郡)千厩町・(氣仙郡)盛岡市・(上閉伊郡)遠野
 町・釜石町・(下閉伊郡)宮古町・岩泉町・(九戸郡)久慈町・輕
 米町・(二戸郡)福岡町

校學と衙公官

縣立八幡病院
 縣診療所
 岩手惠風園
 盛岡聯隊區司令部
 盛岡憲兵分隊
 騎兵第三旅團司令部
 騎兵第二十三聯隊
 騎兵第二十四聯隊
 工兵第八大隊
 衛戍病院
 帝室林野局盛岡出張所
 仙臺地方專賣局出張所
 盛岡地方裁判所及檢事
 局
 區裁判所及檢事局

盛岡市八幡町
 氣仙郡世田米村・二戸郡一戸町・九戸郡種市村
 下閉伊郡山田町
 盛岡市内丸
 同 仁王
 岩手郡厨川村
 同
 同
 同
 同
 同
 盛岡市日影門外小路
 盛岡市上田・稗貫郡大迫町・東磐井郡千厩町
 盛岡市内丸
 盛岡市内丸・稗貫郡花卷町・二戸郡福岡町・上閉伊郡遠野町・
 下閉伊郡宮古町・西磐井郡一關町・膽澤郡水澤町

校學と衙公官

盛岡 供託局 盛岡 供託局
宮城刑務所一關支所
盛岡少年刑務所
農林省農事試驗場
東北小麥試驗地
營林署
釜石稅關支署
稅務署

盛岡市内丸
盛岡市内丸・稗貫郡花卷町・二戸郡福岡町・上閉伊郡遠野町・
下閉伊郡宮古町・西磐井郡一關町・膽澤郡水澤町
西磐井郡一關町
岩手郡樹川村
岩手郡中野村
盛岡市大澤川原小路・(九戸郡)久慈町・(下閉伊郡)宮古町・岩
泉町(岩手郡)沼宮内町・雫石村・(上閉伊郡)遠野町・(稗貫郡)
花卷町・(和賀郡)湯田村・(膽澤郡)水澤町・(西磐井郡)一關町
(氣仙郡)盛岡町・高田町
上閉伊郡釜石町
盛岡市上田・稗貫郡花卷町・膽澤郡水澤町・西磐井郡一關町・
氣仙郡盛岡町・上閉伊郡遠野町・下閉伊郡宮古町・九戸郡久慈町・
二戸郡福岡町
(盛岡市)盛岡・盛岡本町・盛岡上田・盛岡驛前・盛岡材木町・
盛岡仙北町・盛岡新穀町・盛岡外加賀野・盛岡大通・(岩手郡)
松尾・藪川・好摩・平館・雫石・松尾鐵山・樹川・遠民・外山・
小岩井・築川・沼宮内・玉山・大更・川口・(紫波郡)乙部・志

校學と衙公官

盛岡 建設事務所
盛岡 運輸事務所
盛岡 線事務所
盛岡 保線事務所
鐵道局
盛岡 郵便局

和・岩手飯岡・徳田・日詰・矢幅・(稗貫郡)花卷・臺・花卷四
日町・石鳥谷・鉛・大澤温泉・花卷温泉・大迫・八幡・(和賀郡)
土澤・黒澤尻・二子・川尻・藤根・横川目・湯本・川舟・笹間
川内・新町・杉名・土畑・仙人山・(膽澤郡)水澤・前澤・相
去・六原・衣川・若柳・金ヶ崎・姉体・小山・(江刺郡)羽田・
岩谷堂・野手崎・伊手・黒石・米里・口内・(西磐井郡)一關
花泉・平泉・涌津・山ノ口・金澤・一關鍛冶町・日形・嚴美・
(東磐井郡)大原・摺澤・千蔵・藤澤・興田・薄衣・折壁・猿澤
長坂・薄衣・矢作・舞川・生母・黄海・松川町・奥王・(氣仙郡)小
白濱・吉濱・小友・綾里・越喜來・細浦・今泉・大船渡・上有住
廣田・盛・高田・世田米・赤崎・泊濱・只田・大股・(上閉伊郡)遠野
栗橋・岩手上郷・宮守・鶴住居・人槌・達曾部・釜石鑛山・釜石
大渡・附馬牛・小友・大橋・安渡(下閉伊郡)山田・小川・宮古新町
津輕石・船越・宮古・小國・大川・川井・田老村・上川井・沼袋・岩泉
茂市・平井賀・小本・門馬・重茂村・普代・鐵ヶ崎・安家・袋綿・(九戸
郡)久慈・湊・晴山・種市・山根・關久慈・葛卷・江刺・侍濱・宇部・伊
保内・輕米・野田・大野・三日町・(二戸郡)田山・福岡・金田一・奥
中山・小島谷村・一戸町・御返地・淨法寺・新町
盛岡市下野川

校學と衙公官

盛岡高等農林學校
岩手醫學專門學校
縣立六原青年道場
同分場海洋青年道場
縣立師範學校
縣立女子師範學校
縣立中學校
組合立中學校
私立中學校
縣立高等女學校
縣立實科高等女學校
私立高等女學校
私立實科高等女學校
縣立農學學校
縣立蠶業學校

盛岡市上田
盛岡市内丸
膽澤郡相去村
下閉伊郡宮古町
盛岡市上田
盛岡市内丸
盛岡市上田・西磐井郡一關町・二戸郡福岡町・上閉伊郡遠野町
和賀郡黒澤尻町
神貫郡花卷町
盛岡市大澤川原
盛岡市新庄・神貫郡花卷町・西磐井郡一關町・上閉伊郡遠野町
二戸郡一戸町・膽澤郡水澤町・江刺郡岩谷堂町・和賀郡黒澤尻町
下閉伊郡宮古町
氣仙郡高田町
盛岡市仁王公園下・日影門外小路
上閉伊郡釜石町・大槌町・二戸郡福岡町・下閉伊郡山田町・膽澤郡前澤町
紫波郡見前町・神貫郡花卷町・膽澤郡水澤町・氣仙郡盛町・九戸郡久慈町
東磐井郡千厩町

村町市

縣立工業學校
縣立商業學校
町立商業學校
私立女子商業學校
縣立水産學校
縣立盲啞學校
盛岡市
岩手郡太田村
九戸郡種市村
同小輕米村
同葛卷村
西磐井郡一關町
江刺郡岩谷堂町
膽澤郡前澤町

市町

盛岡市内丸
盛岡市新庄・膽澤郡水澤町
上閉伊郡釜石町
盛岡市紙町
下閉伊郡宮古町
盛岡市平山小路

水道事業經營
產業組合
納稅成績優良
同
電氣及水道事業經營
電氣及小額營業資金貸付
水道事業經營
水道事業經營

盛岡驛より約十六町(自動車)
盛岡驛より一里二十九町(自動車)
種市驛より約五町(自動車)
金田一驛より七里(自動車)
沼宮内驛より八里十八町(自動車)
一關驛より約十町(自動車)
水澤驛より約二里(自動車)
前澤驛より約五町(自動車)

合組業産

産業組合中央會岩手支會
 岩手縣信用組合聯合會
 同購買販賣組合聯合會
 岩手縣藥草販賣聯合會
 岩手縣聯合會
 岩手縣聯合會
 盛岡信用組合
 幸郷信購販組台
 德田信購販利組台
 中内村信購販利組台
 小山田信購販組台

信用事業
 購買販賣事業
 製絲
 有市街小額貸付
 農・保・米販賣
 農・保・米販賣
 農・保・肥料購買
 保・信用事業
 米販賣
 農・保・日用品購買

岩手縣廳内盛岡驛より
 約十五町(自動車)
 盛岡市・盛岡驛より約五町(自動車)
 盛岡市・盛岡驛より約十町(自動車)
 岩手郡本宮村・仙北町驛前
 盛岡市・盛岡驛より約十五町(自動車)
 岩手郡太田村
 盛岡驛より一里二十九町(自動車)
 紫波郡德田村
 矢幅驛より十八町(自動車)
 和賀郡中内村
 土澤驛より約一里十八町
 和賀郡小山田村・土澤驛より約一里

産業組合

(農は農業倉庫經營・保は保證責任)
 (有は有限責任・無は無限責任)

合組業産

小島信購組台
 奥玉信購販組台
 岩泉生糸信購利販組台
 岩手縣蠶工品販賣組台
 一戸養豚信購利組台
 笹間新興信購販利組台
 購買利用組合盛岡病院
 花巻水道利用組合
 盛岡洋服業購買組合
 盛岡園藝販購利組合
 盛岡消費購買組合
 岩手縣水産販利組合
 膽澤製網販購組台
 吉里々々住宅信購利組合

農・有・信用事業
 農・保・信用事業
 農・有・製絲
 同・蠶工品
 同・養豚
 同・養雞
 同・病院
 同・水道
 同・洋服
 同・蔬菜販賣
 同・購買事業
 保・漁業
 保・製網
 同・住宅

東磐井郡長嶋村
 平泉驛より一里十町
 東磐井郡奥玉村
 千厩驛より一里二十二町
 下閉伊郡岩泉町
 沼宮内驛より約二十二里(自動車)
 紫波郡煙山村・矢幅驛前
 二戸郡一戸町・一戸驛より(自動車)
 和賀郡笹間村
 花巻驛より二里(自動車)
 盛岡市・盛岡驛より約十五町(自動車)
 稗貫郡花巻町・花巻驛より(自動車)
 盛岡市・盛岡驛より約十七町(自動車)
 盛岡市・盛岡驛より五町(自動車)
 盛岡市・盛岡驛より約七町(自動車)
 盛岡市本町・盛岡驛より十五町(自動車)
 膽澤郡水澤町・水澤驛より五町
 上閉伊郡大槌町
 遠野驛より約十一里(自動車)

育 教

南部醬油販賣組合

保・醬油醸造販賣東北本線・好摩驛前

教 育

岩手縣女子師範學校附屬小學校
盛岡市仁王尋常高等小學校
江刺郡玉里尋常高等小學校
下閉伊郡宮古尋常高等小學校
紫波郡片寄尋常高等小學校
和賀郡二子尋常高等小學校
上閉伊郡達曾部尋常高等小學校
氣仙郡廣田尋常高等小學校

師範學校
代用附屬
郷土教育の實際的研究
同
同
郷土に立脚せる農村教育の研究
同
郷土に立脚せる農村教育の研究

盛岡市内丸盛岡驛より十五町(自動車)
盛岡市仁王盛岡驛より約十五町(自動車)
江刺郡玉里村・水澤驛より(自動車)
下閉伊郡宮古町宮古驛より(自動車)
紫波郡志和村・日詰驛より(自動車)
和賀郡二子村・黒澤尻驛より(自動車)
上閉伊郡達曾部村・岩根橋驛より
氣仙郡廣田村・小友驛より(自動車)

育 教

下閉伊郡船越尋常高等小學校
上閉伊郡塚澤尋常高等小學校
西磐井郡一關尋常高等小學校
二戸郡岩館尋常小學校
盛岡市盛岡高等小學校
江刺郡玉里農業補習學校
紫波郡徳田農業補習學校
和賀郡二子農業補習學校
江刺郡愛宕公民學校
江刺郡藤里農業補習學校
下閉伊郡岩泉公民學校
膽澤郡古城農業補習學校
氣仙郡廣田實業補習學校

同
託兒教育の研究
學校衛生体育施設の研究
複式教授の研究
職業指導の研究
採種圃設置、優良種苗の配付等系統的施設
主要作物原種栽培、養豚等
蔬菜栽培・小家庭飼育の研究
肥料試験の研究
陸稻栽培の研究
米作増收の研究
水産加工
品の研究

下閉伊郡船越村・宮古驛より(自動車)
上閉伊郡宮守村・宮守驛より
西磐井郡一關町一關驛より約五町(自動車)
二戸郡浪打村・一戸驛より
盛岡市下の橋盛岡驛より約十五町(自動車)
江刺郡玉里村水澤驛より約三里十八町(自動車)
紫波郡徳田村矢幅驛より約二十町(自動車)
和賀郡二子村・黒澤尻驛下車(自動車)
江刺郡愛宕村・水澤驛より(自動車)
江刺郡藤里村・水澤驛より(自動車)
下閉伊郡岩泉町・沼宮内驛より(自動車)
膽澤郡古城村・陸中折居驛より
氣仙郡廣田村・小友驛より(自動車)

育教會社

東磐井郡奥玉青年團	岩手郡太田村青年團	和賀郡笹間村青年團	東磐井郡猿澤村青年團	岩手郡太田村女子青年團	盛岡市厨川女子青年團	二戸郡荒澤村女子青年團
補習教育の振興、体力の向上、公共事業補助	智徳の修養、産業の改善、体力の向上、公共事業補助	産業の改善、公共事業補助、体力の向上、風紀改善、智徳の修養	産業の改善、公共事業補助、智徳の修養、体力の向上	智徳の修養、産業の改善、体力の向上、公共事業補助	神饌田並學校田の實習、智徳の向上、編物講習	智徳の修養、公共事業補助
東磐井郡奥玉村小梨驛より約三十町(自動車)	岩手郡太田村盛岡驛より一里二十九町(自動車)	和賀郡笹間村花巻驛より約三里(自動車)	東磐井郡猿澤村摺澤驛より約二里(自動車)	岩手郡太田村盛岡驛より一里二十九町(自動車)	盛岡市厨川盛岡驛より約七町(自動車)	二戸郡荒澤村荒屋新町驛より約三町(自動車)

社會事業

業事會社

岩手養育院	岩手養老院	岩手恵風園	縣立杜陵學園	岩手保健醫院	盛岡無料宿泊所
孤兒貧兒を收容養育する育兒事業	技養者なき老衰者を收容する養老事業	昭和八年三月三日津浪罹災者中孤獨の老幼者、廢人其の他貧困者等の收容保護	不良兒童の感化事業	釋放者保護事業	窮迫行旅者無宿者の宿泊保護
盛岡市加賀野・盛岡驛より(自動車)	盛岡市加賀野・盛岡驛より(自動車)	下閉伊郡山田町・宮古驛より(自動車)	盛岡市三ッ割・盛岡驛より(自動車)	盛岡市鷹匠小路・盛岡驛より(自動車)	盛岡市加賀野・盛岡驛より(自動車)

業農

農 業

縣 農 會
 小 岩 井 農 場
 國 分 農 場
 小 通 共 同 作 業 組 合
 増 澤 自 孤 會
 常 盤 農 業 經 營 改 善 組 合

育馬、育牛、耕耘、樹林の四部を置き、附屬設備として郵便局、小學校、託児舎、醫局、共済會、俱樂部等の設備
 農事の試験
 稲作全部の共同作業、稚蠶共同飼育、生産物の共同販賣、必需品の共同購入、採種圃及苗代の共同經營、共同作業場の設置
 稲作全般の共同作業、共同作業場の設置、農具の共同利用
 共同購入、稲作等の共同作業、共同飼育、共同利
 用等

盛岡市内丸
 盛岡驛より約十六町(自動車)
 岩手郡平石村、瀧澤村、西山村
 小岩井驛より十八町
 岩手郡瀧澤村
 厨川驛より約十五町
 和賀郡中内村
 土澤驛より一里(自動車)
 江刺郡岩谷堂町
 水澤驛より二里(自動車)
 膽澤郡佐倉河村
 水澤驛より約一里(自動車)

業農

萩莊村第八區共同作業組合
 國 分 謙 吉
 山 田 清 之 助
 菅 原 量 之 助
 千 葉 林 正
 米
 同 同 同 同
 同 同 同 同

稲作全般の共同作業及農産物の共同販賣、動力農具の共同利用
 農事試験場經營
 採 種
 農事団体組織、農事經營改善指導
 水稻改良
 生 産

西磐井郡萩莊村
 一關驛より約二里(自動車)
 岩手郡瀧澤村
 厨川驛より約十五町
 盛岡市仙北町
 仙北町驛より三町(自動車)
 江刺郡岩谷堂町
 水澤驛より二里十八町(自動車)
 西磐井郡金澤村
 花泉驛より一里(自動車)
 紫波郡徳田村
 矢幅驛より約十五町(自動車)
 岩手郡太田村
 盛岡市より一里二十九町(自動車)
 江刺郡岩谷堂町・稻瀬村・愛宕村
 水澤驛より約二里(自動車)
 膽澤郡南都田村・佐倉河村
 水澤驛より約一里(自動車)
 西磐井郡金澤村
 花泉驛より十九町(自動車)

業置農

葉	大	菜	同	同	同	同	同	蔬	果	小	大
煙								樹	及	麥	麥
草	麻	種						菜	菜	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

東磐井郡各町村
 西磐井郡中里村
 山目驛より約十町(自動車)
 岩手郡中野村
 盛岡市より二十町(自動車)
 紫波郡見前村
 盛岡市より一里二十六町(自動車)
 稗貫郡矢澤村
 花巻驛より三十一町(自動車)
 和賀郡二子村
 黒澤尻驛より一里十九町(自動車)
 江刺郡愛宕村
 水澤驛より一里十四町(自動車)
 西磐井郡山目村
 山目驛より約十町(自動車)
 東磐井郡舞川村・長島村
 東磐井郡長島村・西磐井郡平泉村
 東磐井郡各町村

業置農

鹿妻堰耕地整理組合
 岩手郡及紫波郡・事務所盛岡市仁王・盛岡驛より約十町(自動車)
 水源を雫石川に取れる鹿妻穴堰普通水利組合の用水幹線を利用し、之より分水約五里の用水幹線を新設し、舊田用水補給一千町、新開田七百町を行ふ、各種の工事多くして將來鹿妻穴堰普通水利組合の區域全部約三千五百町を合して水利系統の改善を爲す。
 和賀郡中央耕地整理組合
 和賀郡黒澤尻町外六ヶ村・黒澤尻驛より(自動車)
 和賀中央部農業水利改良事業以下の用排水幹線との間、數線の改良新設及舊田二千四百町の用水補給及開田一千三百町を行ふ、昭和八年度迄認可の縣下耕地整理組合中最大のものである。
 江刺中央耕地整理組合
 江刺郡岩谷堂町・羽田村・田原村・愛宕村
 水澤驛より(自動車)
 江刺郡岩谷堂町外三ヶ村農業水利改良事業として、和賀郡立花村より取入れ舊田六百七十町歩の用水補給の幹線水路を新設す。
 上郷耕地整理組合
 上閉伊郡上郷村・上郷驛より
 開田二百町歩に要する水源を六角牛山麓に溜池を新設す。
 山王海國管開墾
 紫波郡志和村・日詰驛より二里(自動車)

業蠶農

紫波郡志和村及赤石村、水分村、稗貫郡石鳥谷町の舊田約九百七十町の補水及新田約九百五十町の用水貯溜の目的で大溜池設置計画中である。

岩崎縣營開墾事業

和賀郡岩崎村・藤根驛より約一里十八町

模範農村を建設すべく縣立六原青年道場修練生を以て總面積五百二十町の内開畑四百二十町、開田六十町移住百二十戸の豫定にて現在男五十五人、女二十人は何れも六原精神を體して活動し既に百八十町の開畑を見るに至つた。

千貫石縣營用排水改良事業

膽澤郡金ヶ崎町・相去村・金ヶ崎驛より三里

金ヶ崎町及相去村に跨る約八百五十町の開墾豫定地の水源工事は、農林省に於て調査済にして、昭和五年度より九年度迄の繼續事業として目下溜池築造工事中である。

岩手縣蠶種業組合

蠶種

盛岡市内丸・盛岡驛より十五町(自動車)

岩手縣製絲業組合

製絲

同

花輪村老木養蠶實行組合

組合經營

下閉伊郡花輪村・登目驛より約一里

眞城養蠶實行組合

組合經營

膽澤郡眞城村・水澤驛より三十町(自動車)

愛宕村二子町養蠶實行組合

組合經營

江刺郡愛宕村・水澤驛より一里(自動車)

更木村養蠶實行組合

組合經營

和賀郡更木村・花巻驛より

業蠶農

矢澤村烏養蠶實行組合

組合經營

稗貫郡矢澤村・花巻驛及矢澤驛より

志和村養蠶實行組合

稚蠶共同飼育所

紫波郡志和村
日詰驛より二里(自動車)

田頭村養蠶實行組合

組合經營

岩手郡田頭村・大更驛より

伊保内長興寺養蠶實行組合

組合經營

九戸郡伊保内村・金田一驛より(自動車)

岩手縣養蠶業組合聯合會

共同事業獎勵

盛岡市内丸
盛岡驛より十五町(自動車)

岩手縣桑苗組合聯合會

同

同

岩手縣桑苗生産組合

桑苗生産販賣

同 四町(自動車)

稗和桑苗生産組合

同

稗貫郡花巻町
花巻驛より約十町(自動車)

磐井桑苗組合

同

東磐井郡門崎村・陸中門崎驛より

門崎桑苗組合

同

陸中門崎驛より廿町

猿澤村中部養蠶實行組合

稚蠶共同飼育所
組合模範的經營

東磐井郡猿澤村
摺澤驛より二里(自動車)

金澤村内澤養蠶實行組合

組合模範的經營

西磐井郡金澤村
花泉驛より一里(自動車)

業 林

米崎村勝木田養蠶實行組合
大槌町吉里々々養蠶實行組

桑園改良
稚蠶共同飼育所

氣仙郡米崎村
那の澤驛より五町(自動車)
上閉伊郡大槌町
遠野驛より(自動車)

林 業

縣 有 模 範 林

明治四十一年九月 大正天皇、皇太子殿下に御在し本縣に行啓あらせられし記念事業で、
總面積五千百三十町餘、明治四十三年より昭和八年迄に左の事業區に四千九十二町歩を植
栽其の成績極めて良好である。

事 業 區

釜 澤 二戸郡金田一村・金田一驛より約二里

總面積七百七十四町歩中昭和八年度迄に七百三十四町歩、主として杉、赤松、栗、櫟
漆等を植栽す。
同爾陸体村・北福岡驛より約二里

業 林

黄 海 村 々 有 林

東勢井郡黄海村・花泉又は千厩驛より(自動車)

氣 仙 町 々 有 林

大正元年以來造林、現在二百町歩、杉の生育良好で雜木林も三百三十町歩あり頗る美林で
ある。

大 久 保

氣仙郡吉濱村・大船渡驛より約五里
總面積八百一十一町、大正四年度より昭和八年度迄に七百十四町歩、主として、赤松、
落葉松、栗等を植栽す。

生 出

總面積一千五十一町、昭和七年度迄に八百十八町歩、主として杉、赤松、落葉松、扁
柏、花柏、櫟等を植栽す。

大 田

岩手郡淺岸村・大志田驛より一町
總面積一千九百三十九町、明治四十四年度より昭和八年度迄に一千三百二十町歩、主
として杉、赤松、落葉松、扁柏、花柏、栗、櫟等を栽植す。

總面積五百五十六町、昭和五年度を以て植栽を完了し、其の面積五百六町歩、主とし
て杉、赤松、落葉松、櫟等を植栽す。

明治四十一年施業案編成、百町歩の造林を終了し、尙五百町歩の雜木林は縣下の代表的美林である。

辛 郷家の造林

岩手郡太田村・盛岡驛より約一里二十町(自動車)

佐々木休次郎氏の經營にして其の管理、撫育等私有林經營の指針であつて、杉、赤松、扁柏等百數十町歩に達してゐる。

大原町公有林野官行造林

東磐井郡大原町・摺澤驛より約三里半(自動車)

大正十一年より植栽し、昭和七年迄に約六二五ヘクタール終了、赤松、杉の生育極めて良好である。

岩手縣木炭移出同業組合

盛岡市内丸(縣廳内)・盛岡驛より約十五町(自動車)

昭和二年十二月の設立で、區域は縣下一圓にして、組合員七百九十五名、昭和八年度豫算は六萬二千三百八十五圓である。

岩手縣木炭移出同業組合

盛岡市内丸(縣廳内)盛岡驛より約十五町(自動車)

昭和八年八月設立、區域は縣下一圓とし組合員四百二十七名田舎口數三千四百七十三口此出資額六萬九千四百六十圓(一口金貳拾圓)にして内第一回拂込額一萬七千三百六十五圓である。

長興寺造林保護森林組合

九戸郡伊保内村・北福岡驛より約四里(自動車)

大正八年八月の設立で、翌年より同十三年末迄に三百六十三町歩の造林を完了し、圓滿着實に發達しつゝある。

刈屋土工森林組合

下閉伊郡刈屋村・茂市驛より約一里(自動車)

大正十五年十二月設立、昭和二年より同七年迄に車道一千四百十間、木馬道七千五百三十間竣功の結果、立木價値は從來の二、三倍に上昇す、將來尙延長すべく進捗中である。

淨法寺漆樹栽培組合

二戸郡淨法寺村・北福岡驛より四里(自動車)

昭和五年三月の設立で、現在二百八十四名の組合員を有し、年々一萬五千本以上の漆樹を植栽し、側ら苗圃を經營する外漆液、漆樹の賣買法の改善に努めてゐる。

荒澤漆樹栽培組合

二戸郡荒澤村・荒屋新町驛より約二町(自動車)

昭和六年五月の設立で、組合員現在四十名、年々五千本以上の漆樹を植栽し着々事業を進めてゐる。

斗米村漆樹栽培組合

二戸郡斗米村・北福岡より二十町(自動車)

昭和七年八月の設立で現在組合員百五十九名を有し、年々三萬本内外の漆樹を植栽し、苗圃を經營し漆液を採取し着々其の歩を進めてゐる。

産産

松川山葵組合

山葵の栽培及其の加工販賣等をして居る。

豊間根村山葵組合

下閉伊郡豊間根村・宮古驛より約四里(自動車)
山葵の栽培と其の加工をしてゐる

岩手縣山林會

盛岡市内丸(縣廳内)・盛岡驛より約十五町(自動車)

畜産

岩手縣產馬畜産組合聯合會

盛岡市・内丸(縣廳内)盛岡驛より約十五町(自動車)

盛岡產馬畜産組合

盛岡驛より二十町(自動車)

沼宮内產馬畜産組合

沼宮内驛より十五町(自動車)

稗貫產馬畜産組合

石鳥谷驛より三里三十二町(自動車)

和賀產馬畜産組合

黒澤尻驛より六町(自動車)

膽澤產馬畜産組合

水澤驛より七町(自動車)

江刺產馬畜産組合

水澤驛より二里五町(自動車)

山ノ日產馬畜産組合

山目驛より九町(自動車)

畜産

東磐井郡產馬畜産組合

摺澤驛より二里九町(自動車)

氣仙郡產馬畜産組合

陸前高田驛より約四里(自動車)

上閉伊郡產馬畜産組合

遠野驛より五町(自動車)

下閉伊郡產馬畜産組合

宮古驛より(自動車)

九戸郡產馬畜産組合

久慈驛より十五町(自動車)

二戸郡產馬畜産組合

福岡驛より十九町(自動車)

岩手縣養豚組合聯合會

盛岡市内丸(縣廳内)・盛岡驛より約十五町(自動車)

盛岡家畜保險組合

盛岡驛より二十町(自動車)

水澤養豚組合

膽澤郡水澤町・水澤驛より十三町(自動車)

沼宮内家畜保險組合

沼宮内驛より十五町(自動車)

上閉伊郡家畜保險組合

遠野驛より五町(自動車)

下閉伊郡家畜保險組合

沼宮内驛より二十三里(自動車)

九戸郡家畜保險組合

久慈驛より十五町(自動車)

種豚飼養管理種付、仔豚肉豚販賣飼料共同購入

二戸郡一戸町・一戸驛より(自動車)

一戸鶏養豚組合

種豚飼養管理種付、種豚の賣却、仔豚及屠肉の共同販賣、鶏卵肉生産販賣並飼料共同購入

畜産

笹間養鶏組合 和賀郡笹間村・黒澤尻驛より約二里(自動車)
 種鶏、種卵の拂下、食鶏肉卵の共同販賣
 佐比内養鶏組合 紫波郡佐比内村・日詰驛より二里(自動車)
 鶏卵肉生産販賣並に飼料共同購入
 小岩井農場 岩手郡石村・小岩井驛より十八町
 育牛、育馬、耕耘、樹林を主とし他は綿羊・豚・鶏を飼育して居る、又、バター、チーズを製造す。
 諏訪市市場 盛岡市・和賀郡深内村・黒澤尻町・稗貫郡花巻町・大迫町・岩手郡沼宮内町・二戸郡福岡町・九戸郡輕米町・久慈町・下閉伊郡宮古町・上閉伊郡大槌町・遠野町・氣仙郡世田米村・東磐井郡大原町・西磐井郡山目村・膽澤郡水澤町・江刺郡岩谷堂町・盛岡常設家畜市場 盛岡市志家松尾前・盛岡驛より約二十町(自動車)
 馬匹の取引斡旋
 明治煉乳株式会社 下閉伊郡岩泉町・沼宮内驛より二十二里(自動車)
 煉乳、バター製造、一ヶ年牛乳消費量六千石
 江巻製酪所 九戸郡葛巻村・バター製造
 家畜保險組合 上閉伊郡遠野町・遠野驛より(自動車)

畜産

昭和五年七月事業開始、同年十一月末現在、保險引受頭數二百頭、保險價額五萬圓
 盛岡市志家・盛岡驛より約二十町(自動車)
 同 昭和五年十月一日事業開始、同年十一月末現在、保險引受頭數二〇頭、保險價額二萬八千圓
 主なる豚産地 岩手郡・沼宮内町・御堂村・稗貫郡花巻町・矢澤村・氣仙郡矢作村・大船渡町・和賀郡黒澤尻町・膽澤郡水澤町・江刺郡岩谷堂町・西磐井郡金澤村・上閉伊郡遠野町・大槌町・下閉伊郡津輕石村・九戸郡久慈町・種市村・二戸郡福岡町・一戸町
 主なる養鶏地 岩手郡・二戸郡・和賀郡・稗貫郡・紫波郡・膽澤郡・九戸郡・東磐井郡
 主なる馬産地 岩手郡・上閉伊郡・下閉伊郡・九戸郡・二戸郡
 主なる牛産地 下閉伊郡小川村・岩泉町・川井村・大川村・有藝村・小本村・田老村・田野畑村・安家村・九戸郡江刈村・葛巻村・山形村・山根村・二戸郡田山村・姉帯村・氣仙郡世田米村・吉濱村
 緬羊産地 江刺郡稻瀨村・岩谷堂町・岩手郡遊民村・大更村・上閉伊郡宮守村・和賀郡中内村・氣仙郡世田米村・紫波郡彦部村
 養蜂 二戸郡淨法寺村・斗米村・爾薩休村・岩手郡厨川村・盛岡市・上閉伊郡遠野町

鑛業

釜石製鐵所 銑鐵、丸鋼、鑄鐵管、鑄鐵石
松尾鑛山 硫黃
土生鑛山 銅、鑛石、金
大釜生金山 鑛石

上閉伊郡釜石町・釜石驛より(自動車)
岩手郡松尾村・松尾驛・大更驛より
和賀郡湯田村・陸中川尻驛より約二十町
紫波郡乙部村・矢幅驛より約二里

商工業

家鐵工器具 家具製造
鐵瓶工場 鐵工品
清酒釀造業 清酒釀造
製瓦及土管器所

盛岡市・江刺郡岩谷堂町
盛岡市・上閉伊郡釜石町
盛岡市・江刺郡羽田村・二戸郡一戸町
盛岡市・江刺郡石鳥谷町・江刺郡岩谷堂町・膽澤郡水澤町・西磐井郡一關町・東磐井郡千厩町・藤澤町・氣仙郡高田町・盛岡市・二戸郡福岡町
岩手郡卷畑村・稗貫郡花卷町・和賀郡黒澤尻町・上閉伊郡釜石町・大槌町・九戸郡種市村
盛岡市・二戸郡淨法寺村・膽澤郡衣川村
盛岡市・花卷町・紫波郡煙山村・膽澤郡前澤町

和陶磁器
盛岡商工會議所
岩手産銀行 金融業

(支店)盛岡市村木町・向仙北町・稗貫郡花卷町・石鳥谷町・二戸郡福岡町・一戸町・膽澤郡水澤町・前澤町・西磐井郡一關町・九戸郡久慈町・下閉伊郡宮古町・岩泉町・山田町・上閉伊郡釜石町・遠野町・氣仙郡盛岡町・高田町・東磐井郡千厩町・大原町・岩手郡沼宮内町・紫波郡日詰町・和賀郡黒澤尻町・十二鎮村・江刺郡岩谷堂町・青森縣八戸市

岩手

(支店)上閉伊郡釜石町・大槌町・遠野町・膽澤郡水澤町・水澤横町・金ヶ崎町・前澤町・江刺郡岩谷堂町・米里村・和賀郡十二鎮村・黒澤尻町・岩手郡沼宮内町・平館村・零石村・東磐井郡・千厩町・薄衣村・藤澤町・大原町・稗貫郡石鳥谷町・花卷町・紫波郡日詰町・九戸郡伊保内村・西磐井郡一關町・山目村・二戸郡淨法寺村・荒澤村・盛岡市盛岡驛前・仙北町・新穀町・氣仙郡高田町・盛岡市・世田米村・下閉伊郡宮古町・金ヶ崎町・山田町・岩泉町・小本村・田老村・縣外二

盛岡市・稗貫郡湯本村
花卷町・岩谷堂町・江刺郡福岡村
盛岡市内九・盛岡驛より約十六町(自動車)
盛岡市・盛岡驛より約十七町(自動車)

第九

(支店)下閉伊郡宮古町・小川村・岩泉町・九戸郡葛巻村・久慈町・輕米町・岩手郡沼宮内町・二戸郡福岡町・一戸町・上閉郡大槌町・稗貫郡花卷町・江刺郡岩谷堂町・盛岡市本町・盛岡

本店盛岡市吳服町・盛岡驛より約十八町(自動車)

業工商

市材木町・盛岡市惣門・縣外七
 盛岡信託株式會社 信託業 鐵道及軌道を敷設
 花巻温泉電氣鐵道株式會社 鐵道及軌道を敷設
 第八 十八 八田銀行 行 金融業 西磐井郡一關町・一關驛より(自動車)
 (支店)氣仙郡盛岡町・東磐井郡手麻町・縣外 盛岡市本町・盛岡驛より(自動車) 前北頂
 日本勸業銀行 盛岡支店 金融業 盛岡市本町・盛岡驛より(自動車) 前北頂
 安田銀行 盛岡支店 金融業 盛岡市本町・盛岡驛より(自動車) 前北頂
 八戸銀行 種市支店 金融業 盛岡市種市村・種市驛より(自動車) 東登
 八戸銀行 久慈支店 金融業 同 久慈町・久慈驛より(自動車) 野時
 羽後銀行 川尻支店 金融業 同 和賀郡湯田村・陸中川尻驛より(自動車)
 三戸銀行 一戸支店 金融業 同 二戸郡一戸町・一戸驛より(自動車)
 三戸銀行 福岡支店 金融業 同 福岡町・北福岡驛より(自動車) 同 榮
 岩手無盡株式會社 無盡業 盛岡市内丸・盛岡驛より(自動車) 上國町
 盛岡無盡株式會社 無盡業 盛岡市只服町・盛岡驛より(自動車) 水澤
 水澤無盡株式會社 無盡業 盛岡市水澤町・水澤驛より(自動車)
 水上無盡株式會社 無盡業 同 上閉伊郡遠野町・遠野驛より(自動車)
 盛岡電燈株式會社 電燈電力の供給 盛岡市紺屋町・盛岡驛より(自動車)
 三陸水産冷蔵株式會社 冷蔵魚水賣買 同 同 同

業工商

南部土地株式會社 土地賣買 盛岡市大通・盛岡驛より(自動車)
 株式會社 三田商會 銃砲火藥類販賣 盛岡市内丸・盛岡驛より(自動車)
 岩手縣是製絲株式會社 生絲製造販賣 盛岡市下國川・盛岡驛より(自動車)
 盛岡食品市場株式會社 魚類及蔬菜其の他 盛岡市菜園・盛岡驛より(自動車)
 岩手輕便鐵道株式會社 鐵道に依る旅客貨物運送 種賀郡花巻町・花巻驛より(自動車)
 株式會社 花巻温泉 溫泉場を設け旅館 種賀郡湯本村・花巻驛より(電車)
 東北電燈株式會社 特定者に電力供給 和賀郡黒澤尻町・黒澤尻驛より(自動車)
 氣仙水電力株式會社 電燈電力供給 氣仙郡盛岡町・大船渡驛より(自動車)
 陸奥電力株式會社 一般電力供給 二戸郡北國町・北國驛より(自動車)
 馬淵川電氣株式會社 同 同 同
 輕米電氣株式會社 同 同 同
 岩手電氣株式會社 同 同 同
 盛岡魚市場株式會社 魚市場 九戸郡輕米町・金田一驛より(自動車)
 大船渡魚市場株式會社 同 同 同
 株式會社 丸大魚市場 同 同 同
 釜石漁市場株式會社 同 同 同
 岩手農蠶株式會社 蠶種製造 盛岡市・盛岡驛より(自動車)

業工商

橋本	同	紫波郡日詰町・日詰驛より二十三町(自動車)
村山	同	岩手郡巻棚村・川口驛より十五町
共榮	同	神貫郡花巻町・花巻驛より十五町(自動車)
千田	同	和賀郡二子村・黒澤尻驛より一里十九町(自動車)
岩手	同	和賀郡二子村・黒澤尻驛より一里十九町(自動車)
佐藤	同	江刺郡羽田村・水澤驛より一里(自動車)
南	同	西磐井郡平泉村・平泉驛より十町(自動車)
岩手	同	同郡山目村・一關驛より九町(自動車)
加藤	同	東磐井郡摺澤村・摺澤驛より五町(自動車)
加藤	同	東磐井郡大原町・摺澤驛より二里(自動車)
昭榮	同	西磐井郡山目村・一關驛より九町(自動車)
岩手	同	盛岡市下厨川・盛岡驛より約五町(自動車)
縣是	同	氣仙郡高田町・陸前高田驛より約十町(自動車)
縣是	同	東磐井郡手麻町・手麻驛より約十町(自動車)
縣是	同	二戸郡福岡町・北福岡驛より約五町(自動車)
縣是	同	下閉伊郡岩泉町・沼宮内驛より廿三里(自動車)
岩泉	同	東磐井郡小梨村・小梨驛より十二町
黄	同	

主なる副業

一、甘 藍

主に縣北より、生産され其の品質の優良なる點に於いて全國に冠たるものであつて、多く東京、大阪、横濱方面へ移出し、南部甘藍として名聲を馳せて居る、之が取引は各生産地に町村單位の出荷組合が在つて、更に縣農會内岩手縣果菜組合聯合會に於て之を統制し、主として東北本線奥中山、沼宮内、川口、瀧澤、盛岡、好摩等の各驛より積出されて居る。

二、百 合

移出は主として岩手郡及上閉伊郡より出荷せられ南部百合として、東京市場の需要を充じて居る。

三、甜 瓜

盛岡市を中心として其の隣部に生産され、此の地方の特産と云ふても過言ではない、多く盛岡、仙北町、矢幅驛より積出され、其の需要は主として縣内の外青森、北海道等の如く北向きの傾きがある。

四、苹 果

本縣の苹果は嘗つては南部林檎として、斯界に名聲を博したことはあるが、一時病虫害のため

主なる産物

主なる産物

衰退し、最近に至つて再び岩手郡、紫波郡、二戸郡を中心に各地方に亘つて急速なる勃興を見
つゝある状況で、風味の佳良なるは既に定評有り、主として東京に移出されて居る。

五、梨

和梨は西勢井、盛岡、氣仙に、洋梨は紫波、盛岡、岩手等の諸郡に生産され、特に洋梨フレミ
ツシユ、ビニータは好評を博して居る。

六、栗

栗實は各地方に生産されるが、東京、大阪、北海道方面に移出される、数量は莫大に上つて居
るけれども、従来顆粒不整なると、虫害のため比較的安値に取引されて居たが、近來粒撰別、荷
造並二酸化炭素に依る燻蒸等の勵行と、出荷統制に依り着々成績を擧げて居り、尙一面最近勝
栗の製造は勃興し漸次増加の傾向にある。

七、胡桃

従來二戸、九戸、岩手郡地方より鬼胡桃を移出し、東京市場に好評を博しつゝあつたが、之等
地方は更に菓子胡桃を移入栽培するに及び、一層好成绩を収め年々普及の状態に在る。

八、漆

漆樹の植栽は栗と共に舊藩時代から奨励して來たので、其の品質も特に純良なので好評である。

九、漆器

漆器

主なる産物

創始は極めて古く、山御器と稱して二戸郡淨法寺村、荒澤村等は産地で又縣南膽澤郡衣川
村からは汁椀類が過半農家の副業品として製出されてゐる、有名な秀衡繪は平泉藤原時代の漆
器を近年改稱したもので、金箔及色漆を以て蒔繪を施すのが特長である。

一〇、干せんまい

主産地と目すべきは、現在和賀郡澤内村、同湯田村、岩手郡御所村、九戸郡大野村等であるが
縣内山間地方各地に優良なる原料産地あり、且つ製造技術極めて簡單で然かも生産品の販賣は
容易であるから將來急速なる普及を見るであらう。

一一、木炭

大正十年以降移出木炭に對して、縣管検査を施行して其の品類を統一し、又技術の改良を圖つ
たので「岩手木炭」として縣外市場を賑し、木炭取引の基準として推稱されるに至つた。

一二、山菜

本縣地内には山菜栽培適地が多々あるので、近年種苗の購入斡旋から栽培の實地指導を行つて
ゐるので、特に岩手、下閉伊、氣仙の諸郡には農家の副業として、栽培熱が熾んになり頗る
積も増大し優良なものを出してゐる。

一三、椎茸

椎茸は到る處の山林で天然に發生してゐるけれども、人工培養に依つて佳良なものを生産するの

で、將來有望な副業として技術の改善を圖り其の栽培を奨励してゐる。

一四、竹細工

籠、箆等の製織の副業が盛んで、堅牢と廉價な爲めに一般からの需要が多い。

一五、薬工品

本縣薬工品の生産並に販賣は大部分岩手縣薬工品購買販賣利用組合の統制下に在る、同組合は各主要生産地に集積倉庫並荷造場、仕上場等各種生産並販賣に關する設備を有し、且つ製作器具機械は統一されて居るので、繩、筵、叭等に付如何なる需要に對しても迅速に應じ得る特色を有し、現在に於ては縣内各種工場、會社、漁場及北海道並東京方面に販賣して居るが、將來益々發展する傾向に在る。

一六、眞綿

藩政時代から養蠶が隆盛で「南部眞綿」の名が世に現はれてゐる、近來農村婦女子の副業として、玉繭、屑物の利用加工が一般に普及され益々有望の域に進んでゐる。

一七、鶏、鶏卵

數年前迄は年生産百萬圓以上に達せるも、近年價格の下落に依つて稍々金額減少したが、其の數量に於いては年次増加しつゝあり、其の收入は縣下農家戸數の六割を潤ふし、岩手縣廳内岩手縣養鶏組合會を經て各地方養鶏組合は東京、横濱、北海道方面に移出して居る。

一八、豚

最近養豚は各地方到る處の農家に營まれて居るが、其の中二戸、九戸郡は最たるもので、兎角從來は市價の變動に依つて消長を左右されたが、今日に至つては之等影響の支配を受けることなく、堅實なる歩調を辿つて普及發達しつゝある、成豚は主として東京に肉豚として移出され一面種豚、或は仔豚として二戸郡地方より移出されて居るものも少くない、尙近來二、三養豚組合に於ては豚價暴落の對策として燻肉製造を開始するに至つた。

一九、兎毛皮

本縣の養兎は市價の變動に依り、其の生産頭數に増減はあるけれども、從來の例に徴すれば大体八萬頭から二十萬頭内外であつて、之が殆んど全部は毛皮として移出され、所謂「奥州もの」の代表的産地となつて居る、殊に最近に至つては毛質秀れ極めて大型なる二戸改良種の普及に依つて、十ヶ月飼育にて一貫七八百匁に達するもの續々生産される様になり、斯界の注目を惹くに至り、種兎として他縣に移出されるは漸く多きを加ふるに至つた。

二〇、鯉

極めて最近に創つた事業であるけれども、需要の激増と從來本縣には食用鯉の生産殆んどなかつたことは本事業經營上頗る有利な條件であつて、爲めに水田地方農家の間に稻田利用に依る養鯉は急速に普及しつゝある現狀で、縣内需要を充足し、且他府縣へ移出するに至るも決して遠き將來ではない、併し乍ら本縣には現在有力な取扱商人はないので、當業者は生産品の賣捌き

主なる産物

に就いては獨力で之に當る覺悟を要する。以下は、各産物の産出状況、品質、市場動向等について記述する。

二一、蜂蜜 養蜂家の増加、養蜂場の増設、養蜂用具の改良等、養蜂業は著しく進歩し、蜂蜜の産出も増加した。品質も向上し、市場での需要も高まっている。

二二、羊毛及羊毛加工品 現在、羊毛の産出は約三千頭で、之より生産する羊毛は汚毛として販賣する以外、加工してメリノウールとして販賣して居るが、特にメリノウールは近來各種の共同施設に依つて大量生産を計畫して居るから、今後益々増産せらるべき傾向にある。

二三、絹織物 和賀郡小山田村、下閉伊郡湯泉町等主産地であつて平絹、縮緬、紬、絹等を産して居るが近來各地方に於いて、若手縣商系販賣組合と連絡を採り、原料糸の配給を受け、共同作業に依る生産を計畫中である。

二四、紫根染織物 古來、南部第一と稱して紫根根を染料として特製したもので、其の紋飾は雅緻に富み、又皮膚の保健に効があるので有名である。近年技術益々向上した反物の外、卓子掛、帛紗、其の他加工品に利用さる、様に至つた。

二五、椿油 氣仙郡の海岸地方は氣候温暖で早春二月野生の椿が開花結實するので椿油を生産してゐる。

二六、和傘 狹間郡花巻町、江刺郡福岡村等主産地であつて、實用的經濟品として好評あり、年産額十萬圓乃至二十萬圓に達する。

二七、凍豆腐 近年、縣内各地方に生産されるに至つたが、之等組合中、江刺郡愛宕村凍豆腐生産販賣組合と西磐井郡萩莊村凍豆腐組合は、共に一ヶ年の生産販賣高一萬圓以上に達して居るが、尙注文に應じ得ざる状況に在る、殊に近來之が製造技術大いに向上し、且つ從來の天然乾燥を共同火力乾燥に改めた結果面目を一新するに至り、益々有望なる事業と目されて居る。

二八、藻類 若布、昆布等は本縣沿岸各地方より産出され、多くは原料態の儘移出され、年額三十萬圓に達して居るが、之と同時に近來は各種加工によつて、精製品の生産次第に増加されて居る。

産物名

○ 養蜂 養蜂家の増加、養蜂場の増設、養蜂用具の改良等、養蜂業は著しく進歩し、蜂蜜の産出も増加した。品質も向上し、市場での需要も高まっている。

○ 羊毛及羊毛加工品 現在、羊毛の産出は約三千頭で、之より生産する羊毛は汚毛として販賣する以外、加工してメリノウールとして販賣して居るが、特にメリノウールは近來各種の共同施設に依つて大量生産を計畫して居るから、今後益々増産せらるべき傾向にある。

○ 絹織物 和賀郡小山田村、下閉伊郡湯泉町等主産地であつて平絹、縮緬、紬、絹等を産して居るが近來各地方に於いて、若手縣商系販賣組合と連絡を採り、原料糸の配給を受け、共同作業に依る生産を計畫中である。

○ 紫根染織物 古來、南部第一と稱して紫根根を染料として特製したもので、其の紋飾は雅緻に富み、又皮膚の保健に効があるので有名である。近年技術益々向上した反物の外、卓子掛、帛紗、其の他加工品に利用さる、様に至つた。

○ 椿油 氣仙郡の海岸地方は氣候温暖で早春二月野生の椿が開花結實するので椿油を生産してゐる。

○ 和傘 狹間郡花巻町、江刺郡福岡村等主産地であつて、實用的經濟品として好評あり、年産額十萬圓乃至二十萬圓に達する。

○ 凍豆腐 近年、縣内各地方に生産されるに至つたが、之等組合中、江刺郡愛宕村凍豆腐生産販賣組合と西磐井郡萩莊村凍豆腐組合は、共に一ヶ年の生産販賣高一萬圓以上に達して居るが、尙注文に應じ得ざる状況に在る、殊に近來之が製造技術大いに向上し、且つ從來の天然乾燥を共同火力乾燥に改めた結果面目を一新するに至り、益々有望なる事業と目されて居る。

○ 藻類 若布、昆布等は本縣沿岸各地方より産出され、多くは原料態の儘移出され、年額三十萬圓に達して居るが、之と同時に近來は各種加工によつて、精製品の生産次第に増加されて居る。

産物

産名物名

○農

産

物

盛岡市・岩手郡中野村・和賀郡立花村・二戸郡一戸町・氣仙郡末崎村
 岩手郡沼宮内町・厨川村・二戸郡小島谷村・紫波郡乙部村
 紫波郡乙部村
 紫波郡見前村・和賀郡二子村
 盛岡市・氣仙郡末崎村・米崎村・岩手郡中野村
 岩手郡遊民村
 西磐井郡萩莊村・山目村
 東磐井郡長嶋村・敷川村
 紫波郡德田村・乙部村
 氣仙郡各町村・東磐井各町村・西磐井郡老松村
 九戸郡山根村・紫波郡佐比内村
 九戸郡江刺家村
 氣仙郡吉瀬村・上閉伊郡上郷村
 岩手郡大更村・西山村・下閉伊郡豊間根村・西磐井郡萩莊村・氣仙郡世田米村

産名物名

○水

産

物

漆 桐村下敷甲良液
 木 炭
 ○鐵 紫波郡乙部村・和賀郡澤内村・玉山村
 ○銅 上閉伊郡釜石町甲子村
 ○硫 和賀郡湯田村
 石 岩手郡松尾村
 産 下閉伊郡小川村
 節 氣仙郡赤崎村・上閉伊郡釜石町・下閉伊郡宮古町
 節 氣仙郡大船渡町
 節 氣仙郡吉濱村・上閉伊郡大槌町・釜石町・下閉伊山田町・織笠村・船越村・大澤村
 鮑 氣仙郡綾里村・上閉伊郡鶴住居村・下閉伊郡重茂村・船越村・山田町
 鮑 上閉伊郡釜石町
 鮑 上閉伊郡釜石町・下閉伊郡宮古町・山田町

産名物名

關町・四季の友・水上正宗・多賀多(氣仙郡高田町)・稻の友・南部關・七光正宗・奥の花(稗貫郡石鳥谷町)・玉の春(東磐井郡千厩町)・福來(九戸郡宇部村)・濱千鳥(上閉伊郡釜石町)・七福神(稗貫郡石鳥谷町)・積善正宗・白藤正宗・司・寶津・志ら梅(江刺郡岩谷堂町)・開福(岩手郡大更村)・岩手譽(膽澤郡水澤町)・白菊(氣仙郡盛町)・山下水・堀の友(二戸郡福岡町)・金千鳥(上閉伊郡遠野町)・來恩(九戸郡久慈町)

菓

子

類

黄精飴・麥煎餅(盛岡市)・大正餅・穴コせんべい(紫波郡日詰町)・花巻おこし・黄身可世・榎梓羊羹(稗貫郡花巻町)・黄金餅・金山おこし(和賀郡黒澤尻町)・煉羊羹・白羊羹(江刺郡岩谷堂町)・煉羊羹(膽澤郡水澤町)・時の太鼓・田村の梅・光豆・關の花・あから餅・茄子の甘露漬(西磐井郡一關町)・凍餅(西磐井郡平泉村)・ぼとぎす(東磐井郡千厩町)・梟鼻羊羹(東磐井郡長坂村)・猿澤羊羹(東磐井郡猿澤村)・栗落雁(東磐井郡大原町)・明烏・胡桃羊羹(上閉伊郡遠野町)・米おこし(氣仙郡世田米村)・柚羊羹(氣仙郡高田町)・柿羊羹(氣仙郡盛町)・いかせんべい(上閉伊郡釜石町)・鯉煎餅(下閉伊郡宮古町)

其他 飲食品

凍豆腐(江刺郡愛宕村)・納豆(盛岡市)・稗貫郡花巻町・味噌(江刺郡岩谷堂町)・菓子種(稗貫郡花巻町)・素麺類(膽澤郡前澤町)・稗貫郡花巻町・江刺郡岩谷堂町・西磐井郡一關町・鮎味噌(西磐井郡一關町)

震 災

昭和八年三月三日、本縣東海岸三十六箇町村は突如激震に伴ふ津浪襲來の爲甚大なる被害を受け、死者二千六百七十一人、傷者八百五人其他を加ふるれば、實に三萬六千九百七十八人の罹災者を出し、之に次ぐ住居の被害は流失二千九百六十九、倒壊一千百十一、焼失二百一、其他浸水等を加へ六千三百五十七戸の多数に及んだのである。

事長くも 寂聞に達し、いたく宸襟を悩ませられて御内帑を下し賜ひ、且つ侍従を差遣して親しく慰恤あらせ給ひ、全國よりの同情は集注され、政府並縣當局等に於ける措置亦機宜を得て復興、復舊事業は圓滑に進捗し、今や往年にまさる平和な商津漁村の再建はその半以上の功を竣ふるに至つた。

茲に津浪の經過と被害の主なるものを擧ぐれば次の通りである。

津 浪 の 經 過

宮古洞候所の觀測に依れば、宮古灣に於ける最初の津浪は午前三時十二分に襲來し、第二回は同二十三分、第三回は同三十五分、第四回同四十五分であつて、三時五十分に至つて小波となり、四時十分やうやく灣内鎮靜した。即ち十分乃至十二分の周期で波浪が襲來したのであ

災 震

九下上氣 郡		商工業の被害	九下上氣 郡		畜産業の被害
計 閉閉	別		計 閉閉	別	
戸伊伊仙	別	工場 敷	戸伊伊仙	別	馬 頭 牛 豚 (斃死) 鶏 鹿 棟 舎 牛 舎 豚 舎
四 一一一 一 二八 一〇	見損 積 高害		見損 積 高害	見損 積 高害	
二 一 一 四 三 一 八 〇 八 二 四 一 〇 二 〇 〇 六 五 四 〇 三 五 六 七 〇 二 〇 五	死 罹 亡 災 負 從 傷 業 員	二 二 一 一	二 二 一 一	五 三 一 一	

九下上氣 郡		水産業の被害	九下上氣 郡		養蠶業の被害
計 閉閉	別		計 閉閉	別	
戸伊伊仙	別	漁 船 漁 具 養 蠶 殖	戸伊伊仙	別	桑 園 戸養 敷量 量 具 肥 料 蠶 種
八 八 三 三 一 〇 〇 三 四 一 〇 三 二 一 〇 三 二	隻 數 噸 數 見損 積額害		見損 積額害	見損 積額害	
一 五 三 六 三 一 一 七 五 四 一 〇 七 〇 三 〇	數 量 見損 積額害	數 量 見損 積額害	數 量 見損 積額害		
九 九 九 〇 三 九 九 〇 三 九 九 〇	面 積 設 備 生 産 物	面 積 設 備 生 産 物	面 積 設 備 生 産 物		

昭和9年12月1日現在

岩手縣 列車・船舶
電車・汽動車 便覽

岩手縣勢要覽附錄